

# 神奈川縣教育

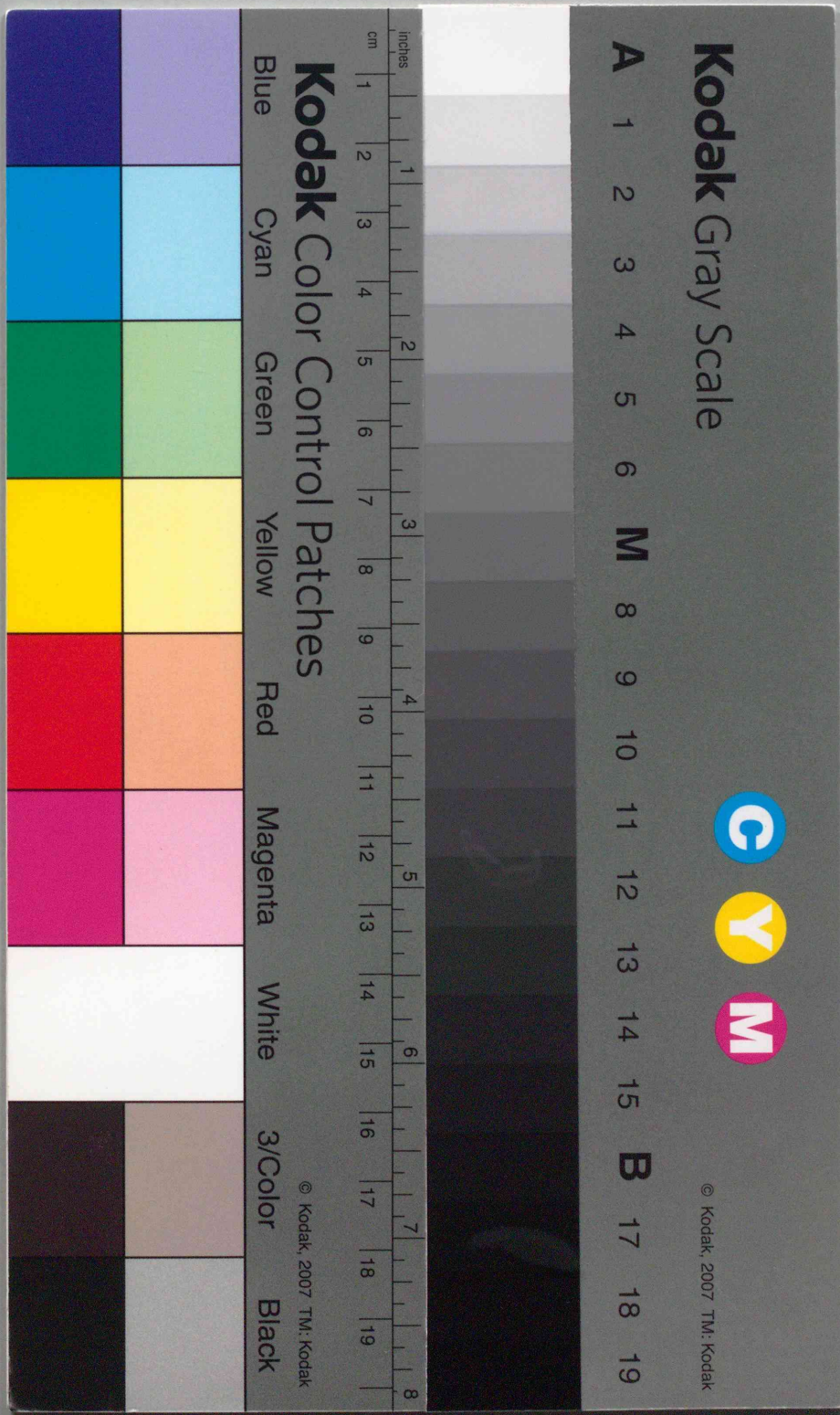
昭和五年十一月一日發行

第貳百六十九號



神奈川縣教育會

教育會  
1871





豫告(十月上旬發行)

# 縣民讀本

寫眞・繪畫・圖表・地圖類六十八葉

定價四拾錢  
菊版高尚堅牢  
約四百頁

縣民意識を強調し、我が縣の現勢を明確ならしむることが編纂の主旨である。文章は尋常小學校卒業者にも読み得る平明の叙述である。

實業補習學校生徒、青年團員、中等學校生徒、有識者、一般縣民

諸君に普ねく購讀せられんことを望む。

神奈川縣廳教務課宛に申込み度し

神奈川縣廳教務課

發行 神奈川縣教育會

## 神奈川縣編纂

文學士宇野・田中朝日・三先生分擔執筆(全參卷一揃)箱入美裝・但分冊賣ヲ嚴禁ス

好評

# 實地授業秘訣叢書

菊版約四百頁 定價金二圓半 送料金十四錢

本書は小學校各科實地授業に關する秘訣を詳述したものである。教授上絕對唯一の伴侶也。是非一本を購ひ給へ。是は各學年全教科に亘りて詳述したるも、(1)劣等生にも各教科の教へ方(2)教授法の名手は一人の劣等生をも操作し、本書は各學年全教科に亘りて詳述したるも、(3)各學年兒童の實力のつけ方(4)教育教授は結局は實力養成である。本書はこの實力養成をモットーとして、各學年各教科に亘りて、如何にして兒童の實力を養成すべきかの秘訣を説いて餘すところがない。

文學士宇野・田中朝日・三先生分擔執筆(全參卷一揃)箱入美裝・但分冊賣ヲ嚴禁ス

好評

# 實地授業指導叢書

菊判四百數十頁  
定價金二圓五十錢  
送料金十四錢

第一卷 成功する實地授業の準備の仕方(本書は實地授業の諸問題を捉へて、縱横自在に論述したものであるから、本書を編纂するに最も進歩せる教授法立案の立て方)第二卷 教學法形式と教授法立案の立て方(本書は實地授業に就いての疑問は立所に解決される。本書はこの重要な位置を占むる教學法形式とその立て方を實例を以て詳述したものである。競ふて各科教授法の進歩の到達點の準備と指導、各科教授法最近の進歩)第三卷 各科教授法に於ける教學法立案の立て方(本書は實地授業に就いての疑問は立所に解決される。本書はこの重要な位置を占むる教學法形式とその立て方を實例を以て詳述したものである。競ふて各科教授法の進歩の到達點の準備と指導、各科教授法最近の進歩)

電話大塚一〇六七番  
振替東京七四四七番

高踏社

東京西巢町  
宮仲二四〇番





卷頭言	河野省三	一
思想史上の鎌倉時代	村上瑚磨雄	三
左様なら、神奈川縣！	山口幸之助	六
學校給食に關する諸問題	間宮欽太郎	一九
隨想	安部光槌	二六
社會の良心	岩本岩次郎	二九
全國的に觀た體育の諸問題	杉山嘉行	三一
疑問を見詰めて	新倉隆	四一
科學部(同好會)の經營	二宮尊德研究部	四四
二宮先生の顔	相模次郎	四八
生ける二宮尊德		五三



自覺した實補の生徒	安藤爲次	五五
過去に顧み圖畫教育の今後に對する卑見	三浦幹雄	六〇
勞働統計實地調査		六三
日本アルプスを踏破して	東秦野校山岳部	六七
藻鹽草(兒童の短歌)		七三
世界教育思潮の大觀(續)	野路當作	七四
教育學の目的	牧口常三郎	七九
互助會便り		八二
■桌報		八四
■圖書のこと		八六
手に觸れた印象其の他		



月刊「主任訓導界」九月臨時増刊號・九月十五日發行・內容  
〔菊版四百數十頁  
六號活字三段組〕

# 讀方新教授法辭典

定價貳圓八拾錢  
郵送料金十錢也

東京帝國大學出身 稻村文學士 東京高師校前教官 水木 梢兩氏責任編輯 申越次第內  
容見本贈呈

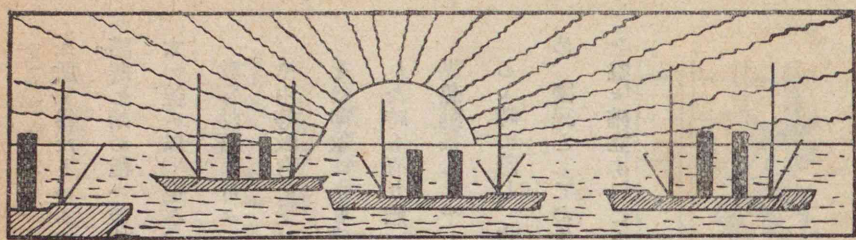
本辭典は小學校教科目中的讀方及び算術二科の教授法に關する最新問題を細大漏らさず網羅したる最新式辭典である。本辭典は、小學教育實際家の切實なる要求に適應すべく、兩著者の苦心研究の結果生れたるものにして讀方・算術新教授法辭典としては、蓋し空前のものである。今本書の六大特色を掲ぐれば、(一)語彙の豊富なること他に冠絶し、(二)讀方算術二科教授法の目的・教材・教法・學習訓練・副教科書・參考事項の各項に亘りて詳述したる外、(三)特に二科教育の最近思潮をも收録し、一々批判を加へ、(四)索引は五十音別、研究部門別の二種を附し、(五)頁數を尨大ならしめず、(六)價格の低廉を圖りたることにある。教育實際家及び各學校圖書館には缺くべからざるものである。須らく一本を購ひ給へ。

文學士 菊地秀男 著

## 大成功で實地授業の實際 好評噴々

各科の實地授業の計劃及び實際を一々實例につきて詳述したり研究授業の參考書

東京 東宮 町 西 巢 鴨 高 踏 社 振替 電話 一六〇七 四七 四四 五七 番



### 所 感

教育勅語煥發四十周年に當り、目下各方面に於て記念の施設や事業を計畫し準備中である。十月三十日には全國の各學校に於て一齊に奉讀式が行はれる。現在種々の思想が錯綜して國民思想がどこに歸一するか迷つてゐるやうに觀察される時に、幸と言はふか教育勅語煥發四十周年記念が提唱された。——唯それだけでも既に人心は教育勅語に對して意識を新たにすることがあつた。是から事業や施設が實行されるに及んで意識は更に深化するであらう。

謹ンテ惟フニ 天皇陛下深く教育ニ軫念シ給ヒ、茲ニ悉ク勅語ヲ下シ給フ。顯正職ヲ文部ニ奉シ躬重任ヲ荷ヒ日夕省思シ嚮フ所ヲ愆ランコトヲ恐ル。勅語ヲ奉承シテ感奮措ク能ハス、謹ンテ勅語ノ謄本ヲ作り普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツ。凡ソノ教育ノ職ニ在ル者須ク常ニ聖意ヲ奉體シテ研磨薰陶ノ務ヲ怠ラサルヘク、殊ニ學校ノ式日及其他便宜日時ヲ定メ、勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ誨告シ、生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ。

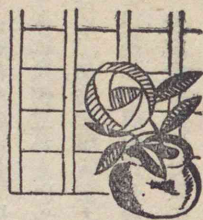
言ふまでもなく、これは教育勅語御下附に附、時の芳川文相の訓示(明治二十三年十月三十一日)である。訓示の後半に於ては聖旨を奉體する方針を示し、前半には當時の歐米かぶれのために國民思想動搖し、勅語が煥發され國民思想の中樞が確立して嚮



ふ所を得たといふ文相の感奮等をうかがひ知ることが出来る。それより國民教育の方針と内容に重きをなし、聖旨の  
 謹解を始め種々の施設が行はれて、只管奉體の實を擧ぐること力めたので、國民道德の發達を來たし、國民思想は  
 太い線を以て進み、文化の向上と共に國運の發展に力を與へたのである。

教育勅語は吾々には有り難い、そして懐しみの深いものとして吾々の生命に脈々として流れてゐる。小學校時代  
 や中等教育を受けた當時に、式日の度毎に校長先生が敬虔の限りを盡して或律動を以て教育勅語を奉讀せられた  
 その印象は今も残つてゐる。過日橋樹郡女教員會創立總會に會長（女教員）が教育勅語を堂々と立派に奉讀せら  
 れた時も有り難い懐しい情が滾々と起つて來た。

思想動搖してやゝもすればその歸嚮に迷はんとする現在である。奉讀式や記念の事業や施設が國民的感銘深く行は  
 るゝ時に際し、古今に通じて謬らず中外に施して悖らざる國民の眞精神を益々明かにし、國民思想の嚮ふ所に目覺  
 め、國民としての生活傾向の指導根底となり、國民的信念となつて詭激の思想に呼びかけられても妄に動かない態度  
 を益々確立することを望むものである。



## 思想史上の鎌倉時代

講演

國學院大學教授 河野省三

### 武士道史に於ける鎌倉時代

#### 國史道德史に於ける鎌倉時代

#### 日本宗教史に於ける鎌倉時代

鎌倉時代——と一口に言ひますと、武士、武士道といふ事は直ちに聯想されるのであります。此の鎌倉時代を思  
 想史より言へば、内容は豊富だとは申されません。しかしながら、よく之を觀察し研究する時は豊富な意義があり、  
 各方面から研究せらるゝ内容を持つのであります。只今から其著しい方面の大觀をなして見たいと思つてあります。

### 武士道史に於ける鎌倉時代

#### 鎌倉時代は日本武士道の母胎

我國歴史上に於て、鎌倉時代が現れなければ、武士道の出現は果してどうなつたのでありませうか。武士道の本質  
 それ自身は、此の時代に初まつたのではなく、重要性質は既に存在してゐたのであります。之が武家の社會生活を



通じて、即ち環境を通じて、我が國民性が武士道として發達したのは實に此の時代であります。  
それ故、武士道の發達過程より見て、鎌倉時代は如何なる位置を占むるか、左の時代區分の上より之をながめて見たいと思ふのであります。

### 武士道の時代區分

武士道史の時代區分	萌芽期……上代平安朝初期まで
	發達期……鎌倉時代平安朝末期より
	鍛練期……室町戰國時代
	大成期……江戸時代
	展開期……明治時代

右様に私は武士道史の時代區分をしたのでありますが、人により或は武士道發生を鎌倉に求める者、或は神代に、或は上代に求める者もありますが、私は前の表に示した通り、鎌倉時代は武士道の發達期として極めて重要な位置を占むるものとして見たいのであります。

それは何故かといふに、武士社會の出現の結果、武家環境の影響を受けたものは我が國民性であります。此の國民性は、勿論建國當初よりは存してゐたけれども、之が武士の部落相互の戰爭等により、追々と鍛練せられ訓練せられて發達し、眞面目を發揮したからであります。

今右の時代區分表に就いて、簡単に其の推移の状況をながめて見たいと思ひます。

鎌倉時代以前にあつても、坂上田村麻呂、文屋綿麻呂の時代はあつた。之を萌芽時代と呼ぶのであります。しかし

ながら此の氣分が一頓挫を來したのであります。

即ち平安時代の公家が武陵桃源の夢を食つてゐる時代に於て、剛健なる武士的要素が眠つてしまつたのが、鎌倉時代になつて緊張して來たのであります。しかしながら緊張の曙光は平安末期にあつたのであります。前九年の役、後三年の役等に於て武士的訓練が營なまれたのである。之がやがて源平の對立抗爭となり、武家幕府の設置により、茲に武士的社會狀態の確立となり、武士道も發達し、所謂武士道發達期と稱せられる時代を現出したのであります。

之が後に至りまして戰爭も行はれ、絶間なき平和的訓練が施されるやうになり、室町、戰國時代に於ては實戰により絶えず訓練され鍛練されたのである。之を私は鍛練期と稱するのであります。然して之が思想的に訓練組織された時代、即ち學問的に組織せられたのが江戸時代で、大成期と呼ぶのであります。江戸時代の太平なる治世に於て武士道は緩んだのであります。しかし幕末に於て緊張し、思想的に見ればはじめて大成の域に達したのであります。武士道の重大問題は實に朝幕關係にあつたのであります。武士道に於ける忠義は何處に落付くべきであるか。我が國民道徳に於ては、皇室中心により安心して忠義を盡すに非ざれば武士道の解釋とはならぬのであります。皇室中心の忠義、之を國民は望んでゐたのであるが、之れが分らなかつたのは實に嘆かましい問題であつたのであります。此の調和を圖つたものは山鹿素行であります。素行は實に忠義の根底を朝廷に置いたのであつて、武士道と勤王思想が合體し、武士の忠君愛國思想が我が國民道徳の理想と合致したのであつて、之れ故に武士道の大成期と稱するのであります。

然しながら時勢は轉廻し、何時しか武士の社會ではなくなり、日本刀は腰から離れ、長槍は長押の隠に埃が堆く積る様な社會狀態に變つて、封建社會は潰え、國際的位置關係からして緊張した時代を現出するに到つたのであります。而して武士道の發達は意志の緊張といふことが、實に大きな重要な發達原因となるのであります。斯くして緊張した明治の國家社會を實現せしむる爲に、或は陸海軍を發達せしむることになり、國民道徳方面では古の武士と同じ



氣分が養成せられたのであります。ですから、換言すれば、明治に於ては武士道は形を換へて發達し、國民道德化したのであるといふことが出來ます。其の意味に於て明治時代は武士道の展開期といふのであります。そうして日清、日露の兩大戦役に戦勝した結果、武士道は世界各國の學者に研究せられ、研究せられた結果之が反省されたのであります。ですから種々の意味に於て、武士道史上に於て明治時代を私は展開期と呼ぶのであります。

次に鎌倉時代の武士道の重要なことの二三に就いて述べて見たいと思ひます。

### 鎌倉武士の訓練と其の道德律

武士道發達の二大恩人、頼朝と——泰時

吉野朝の忠臣北畠親房は、其の著神皇正統記中に於て、頼朝、泰時を民政上の二大恩人であるといふ意味のことを言つて激賞してゐる。然しながら武士道上より見るも亦此の二人は大恩人といふことが出来る。若し二人がなかつたとするならば如何であつたらうか。鎌倉武士の型を作る上に、理想的な武士を作るべく、頼朝、泰時の考へ、施設、訓練は實に立派なものであつたのです。然らば鎌倉武士道とは如何なる型か、如何なる道德を重んじたか、如何なる武士たらんとしたか——私は次の様な具體的な典型的武士の實例を以て語りたいと思ふのであります。

典型的武士——畠山重忠

典型的武士畠山重忠のお話をする前に、武士道に就いて一言申し述べさせて頂きたいと思ふのであります。

我國は實に世界に誇る武士道を有してゐるのであり、又此の武士道は今日世界的に生きてゐるのであります。自分の主君に、團體に、公共的社會に奉仕するといふ此の奉仕的精神が、取りも直さず武士道精神であります。現代社會に生かすことの必要なのは、實に此の道德的精神であります。又武士道は眞劍である。此の心持も、現代社會、

未來社會に於ても必要なことであることは疑ひないのであります。又至誠を以て一貫してゐるものであります。即ち之を一語に約分しますならば、人を生かす、人をよくする。——といふのが即ち武士道精神であり理想とする所であります。我國の武士道なるものが、外國の研究の對照となつてゐることは前にお話ししましたが、中華の識者たちにも盛んに研究せられてゐるのであります。

梁啓超といふ者が『中國之武士道』を著はしてゐる。即ち中華の國民精神を書いたのであります。言ふまでもなく支那人を自覺せしむる爲に書いたもので、日本の武士道に憧憬した結果此の書が著されたのであります。又、戴天仇日本論を著はし、日本の國民精神を批判して曰く、「日本をして今日あらしめたのは信念を基とする武士道である。此の武士道精神がなければ發達せぬ。而して武士道精神が、政治的に宗教的に道德的に訓練されて、茲に日本國といふ國が生成發展したのである」——と喝破して居ります。又米國のエツチ、ジー、ウエルスは改造論の中に、日本の武士道を讚美してゐますし、又米國のロイス教授は至誠奉公論の中に於て、「日本の忠君愛國の精神は小さい封建時代の武士道の精神から養成せられたのだ。合衆國も同様に各州が強い愛國の精神に燃ゆるときが、即ち合衆國全體の愛國の精神になるのである。」と論じてゐます。斯くの如き武士道は決して捨つべきではありません。大いに此の精神を發揮せしむべきであります。

近來國產愛用論が政府を中心として盛んに絶叫されてゐます。尤もな事です。而して武士道も純然たる國產品なのであります。國產愛用、武士道的精神の鍛練、同一ではないでせうか。私は國產品は單に愛用愛護すべきのみならず輸出にまで、即ち國產進出にまで進めることが眞の意味の國產愛護であると思ひます。故に日本武士道も全くこのことと同様、鍛練して以て世界に進出せしむべきものではないでせうか。

さて愈々畠山重忠のお話に移ります。私は武士道史上に於ける畠山重忠を、次の様に考へてゐるものであります。

畠山重忠のことは八代國治博士の著たる武藏武士の中に詳説されてありますが、畠山重忠といふ鎌倉武士の持つ典



型的な美點長所を列舉して見るならば、

節義の士

剛勇武略

清廉潔白

寡欲謙讓

禮節を重んず

聰明睿智思慮周密

風流のたしなみあり

靜御前の鶴岡八幡宮に舞ふや、銅鑼拍子を打つて舞の相手をした風流人、又、重忠は笛をよくした。

膂力絶倫

越の戦の時の重忠、馬を背負つて下りたといふ其の力量。

又、鎌倉隨一の力士長井といふものを抑へ付け動けなくしたといふ逸話等、如何に膂力の絶大なるかを物語るものである。

敬神崇佛

以上の九箇條を武藏武士は擧げてゐる。しかしながら私はもう一箇條あげたいと思ふのであります。吾妻鏡に、建久六年四月五日の條に

『畠山重忠京都の堀尾の明恵上人（高辨）を尋ねやうとし、馬に乗つて来る。近づくに従ひ煙が立上る。堀尾の明恵上人の弟子は丁度掃除をしてゐたが、塵埃に驚き京都が火事ですとて上人に告げる。上人曰く、火事でも何でもない。之は然るべき勇士が来るだらうと。近づくに従ひ其の通り畠山重忠であつた。重忠は寺にて上人と法談

をして後に歸る』とあります。

此の一事、如何に重忠の非凡な人物であるかを裏書してゐるのであります。並々ならぬ修養深い武士である事を雄辯に物語るものである。勝れたる特色の表現であります。明恵上人の眼識に叶つた彼れ重忠、此の一事は實に龍を描いて睛を點ぜしめたものか。重忠こそは鎌倉武士の理想の典型たるものであつたのであります。此の例によつても當時の武士道は如何なる方面に發達傾向を持つてゐたかがわからうかと思ひます。

正直の尊重

鎌倉以後に正直といふことが多く言はれる様になつたが、武士道に於ては最も大切なものとされて居り、もしも之を缺くことになれば、それは武士道の自滅であつたのであります。神は正直の頭に宿るといつた様な思想は早くからあつたのであります。當時如何に正直を尊重したかに就いては、私は次の言葉を引用いたします。

〔寶基本紀〕 神以祈禱爲先冥加以正直爲本。

〔倭姫命世記〕 日月廻四州雖照六合須照正直頭。

〔文保記〕 一所太神宮者異于天下之諸社所謂元元本本以清淨爲先、屏佛法息以正直爲宗而再拜神祇。

此の原文を見ても、平常的な正直を如何に重んじたか分るのであります。

## 國民道德史に於ける鎌倉時代

### 鎌倉時代は男性的道德の高調期

鎌倉時代は男性的道德の最も高調せられた時でありまして、隨つて當代の女性も亦非常に雄々しかつたのであります。一言にして言へば、質實剛健の時代であつたのであります。特に前代、即ち藤原氏時代は公家達が武陵桃源の夢



を食つて居り、極めて女性的な時代であつたのに比較して、剛健の氣風が一層濃厚であります。之を如實に物語るの  
は彫刻物であります。殊に佛師たる運慶や湛慶の作は、實に時代思想を物語るのであります。殊に神社の狛犬であり  
ますが、之は剛健そのもの、又は遑勁ともいふべきか、何とも言へない氣風が表現されてゐるのであります。

### 國民道德史上特に注意すべき三の現象

當代に於ける國體觀念

神國觀念の強く發動したこと、即ち本朝は神國也。の思想であります。此の思想は勿論平安朝より表はれてはゐま  
すが、鎌倉に至つて強く發動したのであります。吉野朝の正統なるを正した神皇正統にも、大日本は神國也と喝破し  
てありますが、之は單に北畠親房一個人の考のみではなく、當代の聲の結論と見ることが出来るのであります。神國  
也の觀念の甦生するのは、實に我が建國の歴史を回想した時に起る思想でありまして、神祇建設の國といふ意味であ  
り、日本國民としてはこれ當然の自覺なのであります。神祇佑助、神明の加護の思想の國に於ては、此の神國思想は  
外寇及び外交難等、國家の安危の一大危機には必ず我國民の腦裏に油然として湧出するのであります。

而して神國といふ言葉の出た最初は、日本書紀の、神功皇后の三韓を征伐した時に、新羅王が東方に神國あり云々  
と言つてゐる。その中に出て居ります。又三代實祿の、清和天皇の貞觀十一年我國に新羅來寇の風聞が立つた。此の  
時伊勢神宮及び宗像神社、香椎宮に奉つた文の中に出て來るのであります。前述の如くかゝる精神は國際難の時、外  
交難の時に表はれて、我國をして進むべき路を常に示してゐるのであります。

又、人は正直を尊重し、道德を尊ぶの心が強く發動する時、そして自分の不遇、不幸を歎ずる時に我國は神國也、  
神を頼るといふ思想が起つて來るのであります。彼の義經の腰越狀なるものは其の代表的な有名なものであります

かくの如く鎌倉時代には國體觀念、國家觀念が發達したが、更に之を強く發動せしめたものは彼の蒙古襲來の國難  
であります。之は我國は神國也の國體觀念の最高調に達せしめ時であります。換言すれば神國也の自覺を國民一般に  
強めた點に於て効果ありとも見られるのであります。全國家的愛國心を起さしめる上より考察して重要事件なりと  
申したいのであります。この神國觀念について重要なものは

佛者の國體論。日蓮の國體論に就いては何人も知るところであります。又元寇に際しまして二十一日間、石清水八  
幡に參籠した宏覺禪師の願文、即ち敵國降伏祈願文の中には、神國也といふ思想が表はれて居り、堂々たる國體觀念  
の發露と見るべきであります。又、後醍醐天皇の御代に、虎關禪師が元亨釋書を奉つたといひますが、之は實に三種  
の神器を基礎とした堂々たる國體觀を表現せしめた名文であります。

又朝幕關係對立に因る國家意識の緊張であります。つまり一方は公卿の自覺と修養であります。東夷何者ぞ!!とい  
ふ考のもとに、勢力恢復の自覺と、之を實現せしむべき爲の修養とは、鎌倉時代の中葉以後には公卿間には最も強く  
發動したのであります。又、天皇にも英明に亘らせらるゝ方多く、學問的に修養せられ極めて勝れてゐらせられたの  
であります。後醍醐天皇、御烏羽天皇、花園天皇の御方々は、特に新説を打ち立てられ迷信打破を敢行せられた如き  
方々であります。従つて公卿にも勝れたものゝ出現を見たのであります。北畠親房の如きはこれ朝幕關係對立の結  
果が之を生んだものと見ても差支なからうかと思ひます。

之に對して武士道と忠君愛國に就いては、武士は絶えず苦惱してゐたが、遂に之れが一致するに至るのであります  
が、未だ此の問題は解決がつかかなかつたのです。しかし武士とし、幕府としては、朝幕關係上朝廷に對しては無禮な  
き様用意は周到であつた。殊に頼朝に於て其の間の經緯が明瞭に伺はれるのであります。

天照大神に對する國民信仰の朝宗。

鎌倉時代に於ては、朝廷も天照大神に對する信仰強く、亦、幕府も東西國民も大神崇敬の信念が高まつて來たので



あります。何故に斯く伊勢に信仰が強かつたのでありませうか、それは

(1) 宗教信仰の發達と旅行の進歩と御師の活動の結果……御師とは伊勢の神職の如きを言ふのであります。

(2) 佛教家の信仰鼓吹……即ち伊勢大神に對し力説したのである。國民の先祖は伊勢大神なるを説いたのであり、之が當代の上から見て非常に効果のあつたものであります。

(3) 武家方の大義名分に對する深甚の注意……鎌倉幕府は武家であり、朝廷に對しては大義名分上よりは不都合である。故に鎌倉幕府は大義名分を非常に心配したのであります。殊に彼の承久の亂は大者名分より見れば極めて不都合な行爲であるので、鎌倉方の心配は一通ではなかつたのです。泰時が父義時に向ひ「若し鳳輦に遭つた時は如何なる處置をとりませうか」と聞いた時に義時は「鳳輦にあつたら弓矢を投げ出して直ちに降参すべし。然し乍ら天皇から差遣はされた軍兵であつたならば一騎たりとも歸つて来るな」との意味の事を泰時に傳へてゐる。之は幕府方で大義名分を憂慮した具體的のものと思ふことが出来やうかと思ひます。

又政子の夢の中に、政子由井ヶ濱を追遙してゐたところが、海の方から聲あり『天下の亂を救ふは義時の子泰時にありと』之は伊勢大神のお聲である。大神の思召であるからとて大義名分に反した時に立つ瀬がないので責任を伊勢大神にかけて、之れ大神のお聲であると稱してゐる。此の一事眞偽はともかく、如何に幕府が朝廷に對し大義名分につき深甚の注意を拂つてゐたかがうかがはれやうかと思ひます。

親房 天理……天照大神のお聲であると考へてゐた。  
佛教 道理

即ち信仰を伊勢の大神宮に捧げたのであり、之れ信仰發達上忘るゝことの出来ないことであります。

道德的思想と宗教的思想との調和

鎌倉時代は敬神崇佛の思想はよく調和せられ、又儒教思想も一致したのであります。即ち、道德的思想と宗教的信仰の一致なのであります。之を説明する爲に、私は神道五部書（伊勢神道）の中の一節と、御成敗式目の中の一節を抽出して見たいと思ふのであります。

〔御鎮座傳記〕 寶基本紀倭姫命世記の中に

神垂以祈禱爲先、冥加以正直爲本

〔貞永式目〕 神者依人之敬増威、人者依神之德添運

斯の如く神儒佛一致の相が即ち當代の思想であつたのであります。武家法制たる御成敗式目も、此の精神を體し實際化し、民衆化し、時代化して洽く擴めた點に於て、眞の價值を有するものであると思ふのであります。

後世江戸時代に於て、勤王思想家なる山崎闇齋を出してゐる、申す迄もなく、闇齋は神道家であり、垂加靈社といひ神道を垂加神道といふのであります。垂加とは實に寶基本紀の神垂以祈禱爲先、冥加以正直爲本の中の、神は垂るゝの垂と、冥加の加の二字をとつたのであります。何故闇齋が之の二字に共鳴したのであるか。闇齋は有名な儒學者であり、宗教的信仰を起した人であります。垂、加は實に闇齋の倫理説と宗教的信仰と一致した。この心持を表はさん爲に最もよく適合した字であり言葉であつたからであります。

## 日本宗教史に於ける鎌倉時代

鎌倉時代は日本宗教史上に於ける豊年といふべきであると思ひます。新佛教は要求せられ茲に發生したのであります。新禪宗、淨土宗（法然）、親鸞の淨土眞宗、日蓮の法華宗、一遍の時宗等嚮を並べて出て來たのであります。而して佛教の勃興、輸入について要求せられたことは

- 1 簡易直接（截）
- 2 實生活への安心立命
- 3 力強い信仰を與へるものゝ要求發生
- 4 日本的なものゝ要求發生

斯くして佛教方面に於ても、奈良六宗、平安八宗が、當代に於ては一躍十三宗となり、日本佛教民衆佛教となり、



寺は町にも山にも出来、内容頗る豊富になつて來たのであります。

翻つて神道方面を見れば如何といふに、茲に立派に神道説は組織せられたのであります。

山王神道——天臺神道

兩部神道——眞言神道——又は高野山神道

伊勢神道——外宮神道——度會神道

斯の如く神道は組織せられたのであります。有名は北畠親房卿は伊勢神道の研究者であつて、度會家行の弟子であります。随つて其の著神皇正統記は、其の精神を伊勢神道に發するのであります。

而して神道勃興を靜かに考察して見ると、本地垂迹説が平安中期より學説として發達し、宮寺なるものが起り兩部神道など唱へられる様になつたが、此の反動として反本地垂迹説が唱へられる様になつた。伊勢神道は實に其の過度期にあつたものであります。新宗教に對する要求の結果神道説が出て來たのであるが、新佛教の勃興、輸入の結果、政權が東に向つた其の反動としての天臺、眞言の一轉策とも見るべきで、時代に適合したやり方であると思ひます。そして信仰の中心が皆伊勢に集まつて來たのであります。比叡の山王神社も天照大神、熊野權現も天照大神であると稱へ、信仰は糾然として大神中心の時代に向いたのであります。

次に神祕思想の發達に就いて項目を讀む様に簡單にお話いたします。先づ藝術的方面に於ける神祕思想であります之は保元、平治等の戰記物、歌道等に於て、秘密な神祕的な思想が豊にあるのであります。神祕的思想の發展は神代卷の尊重からであります。後に室町戰國時代等は殊に神代卷を尊重したのであります。然しながら此の爲に國體觀念の失はれなかつたこと、即ち日本は天佑神助の國ともいふべき信念が確實に維持されたのであります。

その次に哲學的思索の進歩であります。秘密教（天臺、眞言）が學問の對象であり、吉田神道家が出るに及び、あらゆる方面に哲學的な思索を加へ、神道家に於てだん／＼と深まつて來たのであります。ですから、神道説は我が國

思想史上極めて重要なものであります。吉田兼俱は實に江戸時代の神道の根底、儒教の素地を作り上げたものと言ふことが出来るのであります。（文責有記者）

國學院大學校友會と鶴岡八幡宮主催の鎌倉夏季講習會の講演を、主催者の承諾を得て、會場の鎌倉小學校に於て要領を筆記されたものでありますことを申し添へると共に、其のお骨折を深謝致します。編者

## 國史概論より

▲國史概論は大川博士が中華民國學生の爲めに日本國史を講演したものゝ出版である……

……鎌倉の政治は、武斷的であると同時に民主的でありました。鎌倉政治家は上下の秩序を保つ爲には秋霜の如き嚴烈なる武力を用ひたが、平民の利害には深き同情を有し……使者を諸國に派して農民の實狀を視察させ、地方官が苛税を徵收することを禁じ、或は金利に制限を附して貧民の高利に苦むのを禁じ……人民の安寧を圖りました。或は文書を以て訴願を通達せしめ人民の訴訟が早く鎌倉に到着する途を開きました。かくて民間の財力著しく發達し、文化の向上之に伴つたことは言ふ迄ありません。

……武士道と呼ばれる、新しき精神を有する關東武士が日本全國の地方官として人民の上に立ち、柔弱淫靡なる京都の風俗に代つて、東國剛健の風を鼓吹したことは、國家にとりて實に幸福なことでありました。……彼等の忠誠の精神は、人生に於ける義務の本末輕重を知らしめ、私を以て公を害すべからざること知らしめました。これは吾國の共同生活を向上せしめる上に偉大の貢獻がありました。彼等の體面を重んずる精神は自他の人格を尊重すべきことを教へ、且此の人格の尊嚴を擁護せんとする努力が、武士の生活の各方面に於ける道德的向上の基礎となりました。此の武士道が後に儒教によつて哲學的根柢を與へられ、爾後七百年間、日本國民の道德的生活の中心生命となれる倫理體系に發達したのであります。





## 左様なら、神奈川縣！

村上 瑚磨 雄

今更「八十の手習」をそのままに、月の下旬、西の方遙かにヨーロッパ、アメリカ三界まで、笈を負うて遊學の途に出で立たうとする自分である。物數寄ともいはれようか無鐵砲とも笑はれようか。

最初の十年間は、由井ヶ濱邊の波の音に耳を傾けて過しついで三年間は雨降の秀峰に心行くばかり眺め入つて暮し、壯年の意氣漸く失せなんとするにも心づかず、只うかうかとその日を送つて來たのが、神奈川縣に於ての自分の生活そのものであつた。

今や僅かに燃え残る餘燼に、新に心の薪を積み添へて、強ひても青春の客氣の焰と燃え立たせての此の暴舉(?)にも、正直に白狀すれば、その間多少の計劃がないといふ譯でもない。

幽玄なる哲理に深く人生の歸趣を究め、そこに一切教育の根基を打ち据えようとする、予の所謂「上よりの教育學」は、推究思辨の勞作を、いやが上にもいや高遠に、上へ上へと續けて行つて、その際涯を知らぬ觀さへある一面現實の教育事相、わけても兒童そのものに出發して、そこに教育の土臺を打立てようと説く、予の所謂「下よりの教育學」は、今や掘り下げ工事に専らにして、何時しつかりとした根柢が出来上がるかを豫測し難い狀態である。噫、理想と現實！ 價值と事實！ 理論と實際！ 學者と實際家！ この兩者の間の渾然たる組合せは、到底これを望むことが出来ないであらうか。

「上よりの教育學」が、今少しその針路を下向きに、現實の相へと向けなくてはなるまいし、「下よりの教育學」が、

その鋒先を上部工事の方へと轉じなくてはならないのではないか。かくして兩種の教育學が、中正不偏の或一點に於てビタリと相出會はした時、そこに「唯一のもの」たる眞の教育學が生れ出るのではあるまいか。

かうした組合はせの機運が、最も熾烈に醸成されつゝある國を何處と見るか。いふまでもなく、ゲーテを生み、カントを出した獨逸を外にしては、これを他に求める事は出來ないのである。

自分は先づ獨逸に草鞋の紐を解く事にしよう。それにつけても「文化教育學」の將來は、果してどんなものであらうか。

復興獨逸には、自分の興味をひきつけてしまふ的のものが、あまりに多いであらうことを豫想する。わけても革命後の獨逸が試みて居る、革新された道德教育、さては規律訓練の問題とその實狀など、どんなにか自分の興味をそゝる事であらうか。油斷をしてゐると、この問題の研究だけで、自分の豫定してゐる外遊期間が終つてしまふ様な事になりはしないかとさへ恐れてゐるのである。

しかし自分には、復興獨逸の文化の前に、茫然自失の佇立を敢てする事は許されてはゐない。彼等があれほどまでにあこがれ求めてゐる日本精神、わけても武士道の何たるかについて、まはらぬ舌を強ひてもまはさねばならぬ使命がある。幾千百の大中小學の學生生徒の前に、祖國日本の特有せる大和魂そのものについて、萬丈の氣を吐かねばならぬ大使命があるのである。

さても獨逸語といふ奴は、今更に使ひ悪い言葉であるはい！

情熱の國伊太利に、ムツソリーニの雄圖をうかがひ、大戰後國民意識のわけても旺盛に燃え立てる佛蘭西に足を踏み入れる頃は、自分の舌も少しは滑かに運轉する事であらう。それにつけても、もうその頃は、かなり忙しい毎日を送らねばなるまい。セーヌの河畔に立ちて、悠々天上の月を仰いで安倍仲鷹のセンチメンタリズムを學んでゐる様な餘裕は恐らくもう見出せまい。

時間は走る！ ナニ糞俺だつて！

フェルスター先生にお伴して白耳義、和蘭さては遠く北



歐那威、瑞典くんだりまで、倫理教化運動に出かけては、マサングやゲネラル、ノギを説かねばなるまい。

由來も古い道徳教育の効果の社會的反映を實地に味ひ得ると聞く英國の旅は、自分の心に多少の落ちつきを與へては呉れないか知ら。

歐洲では、ありとあらゆる新興國家までも残らず訪れられる様に、豫め旅券下付の手續が終つてゐる。自分のあやしいエスベラント語の知識が、かうした場合にどうか役立つて呉れる様に！

自分の姿がアメリカ大陸に現はれるのは、早くも出發四年目の夏になる事であらう。黄金の波ゆらぐ此國の文明が歐洲に滿三年ばかりの月日を送つた自分の眼に、果してどんなに映するであらうかは、今からすでに想像される。

シカゴ！ 恐らくは此處が此國に於て自分を一番長く引き止める事であらう。

最終の一分間まで、出来る限り有意義に活用しないでは居られぬ、それは／＼は忙しい旅である。

恩遇を忝うした幾多の方々に、一々別離の御挨拶を申上げ得ない事は、遺憾にもまた申譯なく考へられるし、南船又北馬東奔西走、此の間音問の禮を欠くことも、頗る甚しからうと思ふが、豫め御寛恕を請ひ度ものである。

幸にして恙く歸朝して、再び拜芝を得るの日もあらば……然りその日に、すべてはその日に！

今宵月圓かに星稀に、蟋蟀しきりに鳴いて秋漸く老いんとす。此の月再び圓かならん頃には、すでにライン河畔にさまよへる自分なる事を思ふ時、流石に胸はをどる！

魯蒙猶介自分の如きものをして、人生の活動期の大半を兎も角も大過なく送らしめた我が神奈川縣に、心よりの感謝と愛着とを感じながら去り行く自分である。千里の異域に半夜夢まどかならざる時、心は遠く飛んで御身の上に向ふであらう事を思へ！

さらば、さらばわが神奈川縣！（五・九・一〇夜平塚にて）

歐米留學の御出發に際し、所感の御寄稿を願ひました所、多忙裡にもかゝらず快諾下さつたことを深く感謝致します。雄圖の翼を萬里に展べらるゝ御健體に恙なきことを祈る。

（横溝生）



## 學校給食に關する諸問題（續）

日本大學第四中學校教諭  
日本大學第四商業學校教諭

山口幸之助

### 四

以上の如く、學校給食が小供の健康に、又教育する基礎の確立に効果があるにせよ、それは他面大きな犠牲を拂つてゐるといはれてゐる。即ち公共が多少にせよ、小供に食物をあたへるといふことは兩親の責任を軽くし、ひいては兩親の品性に對してのみならず、小供の將來に對して善からざる結果をのこす様になる。即ちある一つの方向において、兩親が公共より補助をうけるならば、更に他面において又要求してやまないであらうといふ。そしてその補助をうける資格をうるために、小供をあへて等閑に附し結局小供は一方に於て利をうるために、より大きな犠牲を支拂ふ結果となるであらう。又小供自身について考へてみ

ても、公共に依存するの精神を養ふ。そして彼が成長し、彼が小供をもつ様になると、又その小供を公共が養ふことを要求するであらう。かゝる結果は家庭の結合を破り、兩親の愛を害する甚しきものであるといふ。

この意見には確かに誇大なところがある。しかし又もつともらしいところもある。故に一般社會問題にもついてもいはるところであるが、小供に對する救済は兩親に對する救済と考へられなければならない。故にこの種の問題は廣範圍には産業制度の問題に關係する。かくして考へれば結局家庭を破り、又は結合せしむる原因は食物の有無ではなく、むしろ産業制度の弊、即ち失業、勞賃の低廉等であらう。かゝる困難に遭遇せる勞働者の小供から、學校給食を取りさつたからとて、家庭の結合が堅固なると考へる者



があらうか。もしも理想的なる社會が、その成員をしてその家族全體をやしなひうる様にするものであるならば、第一に攻撃の目標となるのはかくすることを不可能にする社會制度の欠陥そのものであると思ふ。この欠陥を改造するのが現代人の目標の一つである。而して學校給食はその過渡期における補助手段であるとすれば、單に前述の理由より、學校給食を放棄することは出来ないであらう。事實について見ても前述の如き心配はあまりないと思はれる。即ち學校給食をうける小供の兩親が何故に貧困であるか。如何なる理由によつて兩親の貧困が將來されてゐるかについてしらべてみると、社會的弊害、又はやむを得ざる事情によることがわかる。ブルクリー女史の引用するところによると、失業、不定期傭、寡婦、賃銀の低廉、病氣等が主な原因をなしてゐるのである。

しかし更に論ずる人は、公共が小供に食をあたへることは、かゝる不幸の原因であるとされてゐる産業的條件をかへつて悪くするといふ。即ち小供が公費によつて養はるゝといふことは、傭主に對する被傭者の要求をゆるめることになるといふ。この種の意見をもつ人々は一切の公的補助

をやめよ。すれば産業的條件は改善さるゝと主張する。しかし學校給食が行はれてゐる故に、産業條件が改善されなくてもいゝといふことはない。産業條件の改善は學校給食より別個の問題である。あまりに兩親の小供に對する愛を輕視することは又大きな誤である。ある論者は公共團體の小供の生活への關與は、兩親をして放縱の生活に入らしむといふ。

しかしこの論議も事實においてはくつがへされてゐる様に思はれる。ブルクリー女史が『學校兒童の食事』の中に引用するところによると、一九一〇年代の最初の時期において、ブラッドフォードにおいてなされた統計によると、虚偽によつて小供を學校給食に關與せしめたる者は二・五%以上ではなかつたのである。即ちこの實驗は兩親自身の收入に關する叙述と、その雇主の彼等の收入に關する叙述とを比較し、第二には兩親の生活狀態が向上されたとき、小供を學校給食よりひいたか否かについてなされたのであり生活條件が向上されても、なほ小供を學校給食にあずからしめてゐた虚偽者は二・五%以上をいでなかつたのみでなくかへつて兩親は自己の收入を過大視してゐたのである。

かくして我々は以上略述の諸反對意見にかゝわらず、學校給食の必要を認めざるを得ないのである。

## 五

學校給食に就いては、以上の論述の他に、實施方法上、管理上諸問題がのこされてゐる。その費用に關しては、社會公共の支出によるべきか、慈善の仕事であるか、又は兩親の負擔によるべきか。勿論、原則的には小供の權利は兩親の義務であるとはいへる。しかし兩親をして社會が失業せしめ貧困の極端に投入したときは、すでに單なる慈善の問題ではなくして、社會公共の關與すべきものであり、社會問題として勞賃の向上失業對策と關聯する。事實現代に於いてこの種の事業は公共團體關與の性質を帯びつゝあることは確かに發展傾向を示してゐるものである。センチメンタルな宗教家や、慈善團體のみの仕事ではないであらう否かへつて合理化のためにはこのセンチメンタルな傾向はすてさらなければならない。勿論給食を全く公共社會のみの關與すべき仕事、社會の義務とすることには反對がある。即ちかゝる習慣は、兩親の小供に對する怠慢を易々と

惹起せしむるの恐があるからである。そしてこの難點を補ふために、安價でしかも營養ある食物を支給すべしともいはれる。勿論この議論にはきくべきものがある。しかし、もしも兩親をしてこの安價な支出さへも不可能ならしむるとき、社會はそれを看過すべきものではないと思ふ。センチメンタルな宗教慈善團體にのみ一任さるべきものではなく、當然公共社會の關與すべきものであらう。英國に於いては、一九〇六年に、オランダに於いては一九〇〇年に、又スイスに於いては一九〇三年に、學校給食に對する公共團體或は國家の關與を法規で規定してゐる。

註 スエーデンのストックホルムでは貧困者の自尊心を保持するために、食事の代價を小供をして仕事をなすことにより支拂はしめたことがある。

さてしからば、如何にして給食をうくべき兒童を撰擇すべきであるか。最近某市における當事者の報告をきくに、給食申出が豫期に反して僅少であつたことを述べてゐる。しからばこの僅少にして貧困兒童のすべてを見出し得ざりし理由は如何なところにあるか？ 思ふに貧困なる者はなほ自尊心を有し、強いてその貧困なることをかくさんと



する慾望をもつてゐる。これに注意することなくしては學校給食はたま／＼失敗の虞があると思ふ。故に事實は貧困なる兒童のみが出席する様に條件をあたへ、貧困調査をあへてせず、主義の上では一般にそれを必要として來るものにあたへるといふ方法がよいと思ふ。但しその間においても、醫者は常に兒童に注意して、必要なときには強制をもすべきである。元來學校給食の問題は、よき社會の實現への過渡的救済手段である。即ち社會に、失業、低廉なる勞賃、不定期收入等に原因する不幸がないならば、學校給食はその必要をすべてとほさないにせよ大半を消失せしむるのである。たゞかゝる不幸の存在する社會に於て、學校給食は重要な意味をもつ。

更に小供は將來の國民を構成するといふ見解は、又國家的見地より學校給食の必要を強制するであらう。

しかし學校給食をうくべき兒童を教師の貧困調査によつて撰定することは殆ど不可能であらう。何となれば、調査それ自身が兩親のプライドと相俟つて困難である。又たとひ兩親の收入を正確に知り得たにせよ、條件の相異がこの調査を無意味にすることがある。しからば學校醫の判定に

よつてなしたら如何。これも又色々の困難をふくむであらう。第一に現在の身體検査の回数はあまりに少なく、正確なる結果を知り得ない。又たとい知り得たとするも、欠食に原因するか食癖によるか區別し得ない。又、一見健康なる者に實は欠食兒童がある。何となれば、醫者の觀察に必要な徴候を表示するまでには、かなりの時日を要するであらうから。故に結局は家庭調査と醫者の判定とを結合しそして兩親及び小供の自尊心を傷けざる様に、あへて貧困調査はせず、求めるものにはあたへるを原則とし、實は欠食兒童のみくる様に、食物の種類或は時間に特に注意すべきであらう。たゞこの間、教師と醫者は家庭及び兒童に對して注意をおこたつてはならない。そして必要と考へらるゝにかゝらず出席せざる者に對しては強制をさへなすべきであらう。

#### 註

スエーデンで行つた方法、即ち給食の代價に子供が仕事をすることはかなり面白い方法である。しかしこの結果は往々勞働過剰になる恐がある。そしてこの悪い結果はかへつて給食の目的を失敗せしむるであらう。

又一般的に兒童全體に給食し、貧困兒童にのみ支拂を免除する方法も考へ得るが、しかし教育に支障なき限り、兩親の意

志にそむいて給食を強制することは不可能であらう。又貧困ではないが家庭の都合上食事をあたへられぬ子供は、この種の狭義の給食にはあづからない。

## 六

我國に於いて、最近この種の問題が注意され、新聞紙は又欠食兒童に關して給食を問題とし論じてゐる。この方面に於ける教育界の努力は、たしかによるこぶべき現象であるに違ない。この種の努力を比較的早く又一般的に行つてゐる岐阜縣においては、ある短期ではあるが實施學校現在二十八校をかぞへてゐる。特に貧困者に對してといふわけではないが、學校給食の廣義の目的について努力してゐるものである。

英國に於けるこの種の事業はかなり古い歴史をもつてゐる。一八六四年二月に、ウェストミンスターに於ける貧民學校と關係して、貧困兒童給食協會が成立してゐる。勿論慈善的性質を多分にもつたものである。この協會設立の動機については、ブルクリー女史の引用するところによると、フランスに起源をもつてゐる。即ち『慈善團體評論』一

八八五年一月號に『パンチ』一八六四年一月十六日より引用するところによると、「一八四八年に佛國政府によつて、醫者及び科學者よりなる委員會が作られ、貧困兒童の特殊病の原因について研究がなされた。この結果によつて、兒童が肉食をせざることを知り、彼等は一月一回新鮮なる肉をあたへることによつて、この病はふせぎ得るとのべた。しかしこの結果は、政治的行爲にはあらわれなかつたが、ビクトル・ユーゴーに大きな影響をあたへ、その後四十年、一八六二年彼によつて十四日に一度、貧困なる四十人の兒童に新鮮な肉とワインの一ぱいをあたへる實驗がなされた。そしてその結果は良好であつた」のである。そして『慈善團體評論』の述ぶところによれば、英國における前述協會の設立は、その影響である給食事業への公共自治團體の關與は、英國では一九〇六年の教育令で規定されてゐる。

米國に於いては、一八九四年にスター、センター、アツツシエーション、オブ、フィラデルフィアが、給食をデュームスフォートン學校で行つたのが始めであり、ペニー、ランチの起源をなしてゐる。この協會の成長したものが「學校



家庭共同學校給食委員會」であると、『健康なる學校』の中にのべられてゐる。

佛蘭西については、ユーゴーのことを前に述べたのであるが、一八四九年に、パリの一部に「國民保護會」によつて最初のケースが作られた。一八六七年には各部分に發展した。そしてその費用については、個人的寄附によると共に、當局が保護金を支拂ふことを規定した法律も出來た。もつともこの法律は、この種の協會の設立を強制してゐなかつた。しかるに一八八二年義務教育令によつてこの種の施設が必然的なものとされたのである。そして元來このケース(Cases)は貧困兒童の出席率をよくするために賞をあたへてゐたのであつたが、義務教育令發布後は、専ら兒童の健康に注意したのである。

ドイツにおいては、この種の注意はよくおかれてゐる。

一八九〇年にベルリンに貧困兒童のための協會が作られたのが初めであらう。一八九七年には、社會民主黨によつてこの種の提案がなされたが否決されてゐる。しかし一九〇九年の調査によると、關係せる百八十九市の中十八市は慈善團體によつて、六十八市は當局より補助金をうけた個人

團體によつて、四十三市は全く公共團體によつて支持されてゐたのである。

スイスに於いてもこの種の事業に對する注意はかなりに古くからあつたのである。しかし急速な進歩をとげたのは一八九〇年以後のことである。この國で面白いことは、學校給食に對する公共團體の補助が、アルコール税より支出されてゐたことである。即ち小供の不幸は兩親の不節制に原因すると考へられたからである。この種の事業に對する管理が、スイスの初期においては、慈善團體に一任されてゐたのはたしかに行政上の欠點であつた。不合理が見出された以後においては(一九〇三年以後)、當局がその行政にも關係したことは、たしかに我々の注意すべきことであらう。一九〇六年頃から以後は、中央政府が國庫補助をさへあたへてゐる。

イタリーにおいては、サン、レモの町が一八九六年にこの種の事業に關與してゐる。一時これは中止されたが、又數年後には復活されてゐる。ミラン市の關與は、一八九七年が初めてあらう。それ以來各方面に擴大されてゐたのである。ベルギーにおいてはほぼイタリーと同時期に實施

### 『小學校に於ける

詩の作らせ方味はせ方』より

(評) 更に君に一言を呈して反省をうながし度ひ。

高一時代は君は詩界に於ける最も勢力家の一人で數も可成産んだやうだが近頃は随分つまつて來たらしい。それを考へて見やう、さうみんな許してゐる通り君の詩は實にきれいだ、繊細だ、線が細い、それはそれで君の獨特な處なんだからそれで好いが、君は昨今表現にこりすぎて飽をかけることばかりに腐心して詩想にかれたのではあるまいか、さあ少しそちへ心向けやう、君の心の向け方はさつきも言つた通り範圍が限定された僅かな世界になつてしまつたからではあるまいか、ねらひ處ねらふ尺度に殼が出来てしまつた様だ。先づそれを破つて、君のゆくところとして即ち臺處のすみから屋根裏の煤、太根烟、もろこし風、町のにぎわひ、かぶと虫といったやうに致る處に君の生活範圍のものとしてながめなほして見やう。單に自然の美の時折りに君に働きかけるのを待つてゐるでなしに、見方の態度をかへて見やう。

とろけるやうだ柿の花がおちてる　を歌つた時の氣持のやうにらく／＼と接しらく／＼と歌ひつゞけて行かう。

されてゐたが、この目的は義務教育が實施される様になつて以來、町にさまよい乞食をなす小供を學校へ送らんがためであつた。ブラッセル市においては、プロGRESS俱樂部が一八八八年に給食を始めてゐる。市の關與にすこしおかれて一八九一年であつた。オランダにおいては、一九〇〇年の義務教育令にもなつて、貧困兒童を自治體が保護すべきことを規定してゐる。デンマルクにおいては、自發的には一八七〇年代においても實施されてゐた様であるが、一九〇二年には法律によつて自治體の關與を規定してゐるコペンハーゲンとは同年にかなりの金額を學校給食團體へあたへてゐる。

我國に於けるこの方面への努力は、必しもふるいことではない。そして現代は各種の條件によつて、特にこの問題は刺戟されてゐる。とにかく、學校給食特に貧困兒童の健康問題は、國家的に教育的に重大なる課題であり、社會における失業救済と關係して當局者の大いに注意すべきことであらうと思ふ。

(完)



# 随想(青年教師の)その一

鎌倉校 間宮欽太郎

一九三〇年型の生活意識を特徴づけてゐるものはどんなものであらう。

- 一、尖端性
- 二、高速度性
- 三、煽情性
- 四、抗争性

その傍系——大衆性と宣傳性

が、それ／＼挙げられると熊井甚太郎さんは修身教育の立場から研究されてゐる。

その尖端の又トツプを切る現代意識てふ言葉について考へて見よう。

詳しいことは、教育研究の暑中休暇號に載つてゐるからそれについて見ら

れよ。

「現代意識」とかうむづかしく考へると、何だかさつぱり分らなくなつてしまつて、一寸つかみどころがないが——、だがどこにか少しばかりピンと來るところがある。やつぱり僕も現代を呼吸してゐる男の一人であつた。」

と反射鏡氏は得意になつて語られた。とはいへ僕が直接に聞いたのではなくて、既に印刷になつてゐる。

とかく若人は尖端を行きたがる。大船の自動車専用道路の廣告ではないが時代の尖端をゆくことを若人の義務と

心得てゐる、かく申す僕がその一例(好模範)である。

閑話「現代意識」とは何ぞやと云ふ定義にぶつかるが、若いものは老人に路を譲る、席を譲ると云ふことがある故に、此の「何ぞや」も老人に譲りたいと思ふ。

安部磯雄氏

現代意識と云ふ言葉は、極めて多岐な内容を持つものであるから、なかなか一口では言へないし、また哲學、社會學等に於けるが如く學問的に研究しその内容をはつきりと把握することは非常にむづかしいことですから、こゝでは

「世間の多くの人々が考へてゐること」——以下略。スピード時代には冗言を節約し、必要な箇處を抽象拔萃し、原稿

紙に書かなければ尖端人と云へないの流儀で「以下略」を用ふ。

橋本爲次氏

現代意識と云ふ言葉を「現代人のもつ思想感情」といつたやうな意味にとる。

それなら現代人のもつ思想感情と云ふのはどういふことか、それは現代人の特有の思想感情ともいひ得ようし、或は又古いにせよ新しいにせよ、傳統的と嶄新との區別なく、とにかく現代人の脳裡に宿る思想感情の總べてだといつてもいい。以下略。

「世間の多くの人々が、考へてゐること」が現代意識である。と大同小異である。

新聞に、家畜の飼料をとつて貪り喰ふ人間があると書かれてある。更に、

乞食を脅迫して金を強奪し、殺人的の黄金魔が釋放され、警官が悪いことをして免職となり、今晚はと云つて地主に歐打される小作人があり、刑務所入りを喜ぶ人間があり、米鹽を買ふための救済金を酒代にする不心得者もあり

若様が牢屋に入れられるし——それは／＼なか／＼以て原稿紙百枚千枚に書き盡くせない程かゝれてある。そしてナンセンス百パーセントのものが多い勳章を金で買ふ、堂々たる大將が收賄で引ばられる、等々々の社會を現代人は如何に考へてゐるか、換言すれば現代意識(社會意識)の内容如何である。

僕は教育家として兒童は如何?の問題を常に念頭に浮べる。青二才でも初等教育家である。茲では訓導といふより耳障りがよい。餘論はさておいて、

今述べようとするのは兒童の現代意識についてである。

環境(小さくして社會が)が兒童に如何なることを考へしめるか。彼等の思想感情はどんなか、彼等の現代意識の内容は如何。

僕は現代の兒童を論じようと思ふものであり、寺小屋時代の小僧ではないことを斷つておく。馬鹿、寺小屋の小僧が現代を意識するかと叱られるかも知れないが、寺小屋當時の現代を小僧が如何に意識したかと云ふことだから許して貰ひたい。

父母を絶対に崇敬してゐたのは昔のことであつて、現代に於ては稍々崇敬されない様になつたといふことを僕は云ひたい。

誰が、青年子女が。誰を、父母を。



事實は親達が意識してゐるだらう。

サンデー毎日所載。特別讀物『荆棘の道』中村武羅夫氏作。中の一節を記さう。

「當り前さ。あんな親なんか、尊敬ができるものか。」

「あんな親とは、何んです！」

「あんな親ぢやないか、親父は親父で家も子供も放つたらかして、女優なんかと一緒に逃げてしまつたり、おふくろはおふくろでわい／＼やきもちをやくだけで、そんな親父の始末をすることもできないぢやないか。」僕は「青年子女が父母を」から次第に「兒童が父母に」轉向しつゝありはしないかと恐れる。

殊に小學校に於ける——四年迄はそんな風なことがないにしても、五—

六、高一—二位の兒童にその萌芽がありはしないかといふことを恐れる。

現代の兒童はその父母を批評的に見、或一面に於ては全然信頼、尊敬の念を缺いてゐる様にも思はれる。事實さうではないかしら。

次に、兒童は種々の機會と機關を通じて、父母より現實社會へと批評的眼を向ける様になつた。僕の級の兒童が新聞記事の内容について語りあつてゐたことを聞いた。つい最近ではロンドン軍縮會議等があり、ツエツペリン伯號の飛來の當時に於いては勿論大變なことであつたと思ふ。(未不赴任)

兒童が社會の活事實に大なる關心をもつと云ふことは、極めて教育上必要な事であり、寧ろ願ひしいことではあるが、先述のやうな社會の醜惡な姿が純

な無邪氣な心眼に映じ、之を問題として友と語り合ふに至つては大いに教育者として考慮すべきではないか。

最近の政變總選舉の際、教室に於ける兒童の對話の一節を……。(註、尋常四年の男生)

「僕ネ××ラオオン大好だ、××なんて駄目だ」

「僕、××黨びいきだよ。」

街頭の掲示板に票數が記され、新聞記事が選舉で埋まつた當時、兒童はかく語つてゐた。

新聞の記事が讀めない、單に他人や父兄の言ふことを聞いて形造つたとは言へ、腦裡に確と把握せられてゐる。

更に本縣出身の某大將の收賄事件の如きは兒童が如何に意識したか。

「偉い人がたくさん神奈川縣からでたが××××は駄目だね、先生。」

兒童は純な心情で郷土の偉人を崇拜する。僕の兒童の如きは「賴朝」を好く而し誤られた賴朝感では賴朝をよくかゝない。故に随分悲觀してゐる。

更に、賣動事件の如きは兒童に影響

する所最も大である。

斯の如き醜惡な現實社會相の把握に依つて形成された兒童現代意識の内容を考慮するときに、教育家は教育上多大の反省をなすべきことを痛感するものである。

## 社會の良心 現代世相と教育者

安 部 光 槌

一  
急げ！ 停つてはならぬ——否そうではない。急ぎ急いでも駄目だ。後から／＼と自分の職に就かうとする人々が押寄せて来る。前途不安——左右混渾——就職の呼び聲——。

かくの如き社會の實情は、無論人ごとではない。われ等とはとてもじつとしては居られない。斯くして、遂にわれ等をば、われ等の外部的生活に目と心を奪うに充分である。今や精神生活の堅城は崩れ始めさうだ。人間の内部に

宿る魂の要求からではなくて、外部の命に依つて魂は仕事を課せられ、勞苦をつゞけてゐる。統一と平和、愉快な生活の爽調は亂れ始めさうだ。現代文化のデカタン性、經濟生活急迫、社會の諸相惡化の救済は難事と見ゆる。人生の深き生活の分裂、仕事と魂との痛ましい分離——は、われ等を否應言はせないで益々周圍の世界に心を向はしめ、屈服し難きも、社會的潮流の必然性の下に一切を投ずる。

しかし、かゝる繁激なる經濟戰、社會的混沌は、われ等をいそがしく立働かせざるが、必ずしもそれはわれ等の内的生活、靈魂の完成充實、超現實的落着を、魂の進歩を意味しない。われ等の意志と感情、そして智慧が、専ら外界、社會に、單にかうした知覺的生活



のために供せられる度が多い。魂はどうかしても自由な活動を妨げられて唯萎縮するのみである。種々なる成功、生活の安定、職業へ従事はしても、人は却つて貧しく空しくなり、まるで重寶がなくなる。

## 二

私には、現代並びに未來を構成し創造しようとしてゐる社會運動の尖端は益々非人格的文明に人生を投ずるかの如く思はれる。人は非人格的文明——所謂社會の規範原理ではなく、その構成原理であるところの一方的の知覺的、科學的文明——のいけにえとなり單なる手段や道具となりつゝあるやうに見える。さうなれば、既に規範とか道德とかは、餘程權威と價值とを失墜され、制限せられざるを得ない。飢えれば盗んでも食ふことこそ、かゝる社

會に於ては眞理の如く思はれ勝であるからである。名譽、成功、利益のための不正なる手段は公然たる事實となるのである。

かくして所謂社會の良心は全然頼りにならず、無價値となり、輿論は却つて人を墮落にまで陥れる。自己存在の意味、自己の魂の救済——かゝる問題は單なるイデオロギーにすぎぬと人々はつぶやく。

しかし、私は、現代の社會が斯かる動きをつゞけやうとしてゐる際にこそなほそれに魂を吹込む餘地があると信じてゐる。正しい生き方に、先づどうあつても現代人を目覺めさせなくてはならぬ。さうすることが本當に本人並びに人類のために永久の幸福をもたらすのである。眞に價値あるものは、單なる時から離れてあらゆる時代の所有

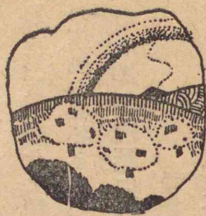
となる。經濟戰にはどうあつても海賊的氣分から脱せしめて、人間的、人格的にまで高めなくてはならぬ。

而してこの重大な生活への新方向に同胞を差向ける者こそ「學校教師」の責務ではあるまいか。善を知らぬかの如き惡性にして不幸な運命にわざはひされつゝある現社會を救済する者は、所謂社會の良心たる學校教師のみである。

魂の否定から肯定への援助を。

人は長く精神の高費性を否定して單なる動物的生活に堪え得るものでないことの教訓を。

しかも現代の學校教師諸君が世界文明の未來の運命の重要な動きの中に與かり居るを見れば、諸君の現實社會に對する態度こそ、一つの危期と試練に遭遇して居るものと考えべきではあるまいか。



# 全國的に觀た體育の諸問題

—文部省體育研究所

第一回研究發表會に於ける—

足柄下・吉濱校 岩 本 岩 次 郎

第一部

— 高校生の體育思想

文學士 江 上 秀 雄

文部省體育研究所第一回研究發表會に於て發表のあつた研究の諸問題は、現時の體育研究の一般的趨勢をうかがふのに最も良い資料となるものであると思ひ、其の發表の大意を掲げて參考の一端に資したいと考へます。(詳細は「學校體育」第三卷第四號以下を御参照下さい。)

同會は昨年十一月九日、神田の女子基督教青年會館で、體育研究所最初の試みとして催されたもので、私も縣の今井先生のお言葉により、女子師範の小幡先生と共に出席し、席末をげがして愚見を述べた榮に浴しました。

第一部と第二部は、唯時間と場所との關係から別けられたものです。

高等學校生徒より選手制度の可否、對校競技の可否及びそれ等の理由、高校の體育を盛大にする方法等の問題に関する解答を求め現代の高校生の體育に關する思想を明らかにしたものである。

女學生の運動能力と腹圍との關係に就て

大阪市夕陽丘高等女學校 大 重 花 子

市岡高等女學校生徒に就き各種の運動能力と腹圍との關係を調査したものである。之によれば大抵腹圍の大なるも



の程運動能力は劣つてゐると云ふことが出来る。

### 運動體型に就て

臺灣學校衛生技師 皆 吉 質

長い間の觀察と Kohlanschi, Bach. 等諸家の説とを綜合して行ふ運動の種類により、色々の體型を獲得するに至る事を研究せるものである。

### 走高跳に於ける稀なる骨傷の一例

皆 吉 質

中學二年生走高跳踏切の際の傷害である。脛骨結節の一部骨牛と骨膜を肘したるまゝ膝蓋靱帯が離れ、四頭股筋の收縮により膝蓋骨は約五センチ上方に轉位した。

### 運動による二三の身體的型質の變化と其の意義

岡山縣勞働科學研究所 八 木 高 次

或る運動を永續することに對する身體の適應現象として起る形質の變化を精細に研究し、その結果から上肢及肩帶の運動の必要を高唱したのである。

### ボールの内壓に就て

體育研究所技師 佐々木 等

ボール内の空氣は不足しても亦入れ過ぎて遊戯そのもの

興味を殺ぐに至る。新しい空氣ポンプを用ひて適當なるボールの内壓を得る工夫に關する報告である。

### 血液型による團體性の研究

古 川 竹 二

氣質の根據を血液型に求め之を更に種々の人的集團の氣質の研究に應用せる研究であつて、體育の方面にも亦應用の價值あるべきを力説した

### 聾啞生の體育

村 上 求 馬

自ら率ゐる聾啞學校生徒に就て二十年來運動競技を行はしめそれを普通人と比較研究した結果から特別な聾啞生の體育の必要を論ず。

### 米國の女子體育界に就て

東京女子基督教青年館體育部主任

河 西 ハ ツ 子

身心は一元的に考察すべく教育に即した體育を考ふべきである。又女子は男子にあらざるが故に女子の體育は女子自身による外はないといふが如きが米國女子體育界の思潮である。

### 弓道の體育上に於ける價值

大日本弓道會理事 矢 根 鹿 兒

弓道は最も簡單に何人にも出来る運動であつて、特に呼

吸器、血液循環器を強健にする効があるから一般體育として弓道を奨励すべきである。

### 東京郊外兒童の身體發育に就て

體育研究所技師 秋 田 善 雄

東京郊外に於ける兒童の身長、及體重を測定し我が國に於ては東京郊外の兒童は最も身長體重の大なることを示し、尙之を歐米に於ける兒童の結果に比較考察したものである。

### 運動による二三血液並尿成分の變化に就て

安 田 守 雄  
山 來 實

運動に際して血液並尿に現はるる變化を系統的に探究せんとし先づ血液中の血糖、血液乳酸、タシアチン、クレアチニン、尿に於けるクレアチン、クレアチニン全窒素、蛋白等に就て研究せる結果の報告である。

### 本邦婦人の體位（第一報）

竹 内 茂 代

家庭婦人と體育運動を行ひつゝある婦人及是等と、外國婦人のそれとの比較研究及び看護婦に體操を行はせた結果に關する研究である。

### 教員の健康狀態に就て

文部省學校衛生官 大 西 永 次 郎

教員の休職、死亡の原因を診斷書を基礎として調査したる結果であつて、疾病の種類は四十種あるも、結核性と神經性の疾患を最多とすることを示す。

### 兒童生徒の健康

須 永 求 馬

文部省に於ける生徒學生缺席休學の原因を調査せる結果及び栃木縣の兒童に就いての同様の調査結果の報告であつて結核性疾患並に神經衰弱の非常に多數なるは深甚の考慮を要する點なることを示した。

### 體操科教授の實際的研究

女子高等師範助教授 宮 田 覺 造

現在體操科教材には偏重的傾向があるが、何處までも全般的なることが必要である、又指導は普遍的になることを必要とし徒らに新奇に走る傾向は避くべきである。新奇なるものは先づ之に就いての根底ある研究をなして然る後に撰擇すべきである。



## スプリントの訓練に就て

東京高師助教授 安 田 弘 嗣

スプリントの訓練法を

脚足の訓練

神経系統と腰部諸筋の訓練

スピード養成

の三項に分つて説明したものである。

## 努力と体操

體育研究所技手 本 間 茂 雄

先づ努力には色々の害があるけれども日常生活には或る程度迄缺くべからざるものなることを論じ、進んで体操に於ては大體努力は避けざるべからざる所以を説き、それには呼吸に注意することの必要なことを明にした。

## 遊戯規則と其の精神

本 間 茂 雄

遊戯の規則は如何なる精神の下に設けられたかを考へ遊戯を行ふ上に又指導する上に之を心得て置く事の必要なることを主張した。

## 學童の身體發育に就て

文部省學校衛生官 岩 原 拓

人口五萬以上の三十一都市の學童につき、身長、體重、胸圍、比胸圍を年齢別に算出し之を全國の標準と比較研究した結果の報告である。

## 動作の左右比較

岩 原 拓

東京市外の小學校に於て十二歳の男女子各三百名に就き質問法及び實例により (一)利き手 (二)利き脚 (三)他動體を蹴る足 (四)溝等跨ぐ時の先出脚に就いて左右が如何なる割合にあるかの研究である。

## 血壓に関する一實驗

體育研究所技師 小 笠 原 道 生

血壓の負相の出現は或る人によれば疲勞の兆候であると主張するが、或る人は之を認めない。演者は實驗の結果常識的には何等疲勞を認めざるにもかゝらず甚だ屢々負相の出現を認めたので、之を以て直ちに疲勞の兆候とは見られないといふ説に賛成する者である。

## 練習經過の心理學的解釋

内 田 勇 三 郎

練習曲線に關する從來の論争を述べ、演者の實驗結果から曲線の型の違ひは作業に對する順應如何によつて定まるものと論じた。

## 最近考案の運動具二つ

女子學習院教授 今 井 熊 太 郎

運動器は子供には重大なる影響を與へるものである。それで運動器の研究は製作者と體育者との協同によりて研究すべきであることを論じ、演者が子供の要求に暗示を得て案出せる二つの運動具の實物に就て説明した。

## 小學兒童體格發育已分に就て

金澤市校醫 島 誠 郁

本邦に於て平均値を以つて標準體格とするのが常であるが、演者は主數を以つて之に代へ一年年長兒童の有する標準體格以上の者は優體格者とし一年年少兒童の有する標準體格以下の者は劣體格とし、其の中間にある者を普通體格兒とした。

## 小學校兒童の疾走力と體格との關係に就て

島 誠 郁

疾走力に勝れたる者は身長、體重、胸圍の絶對値は優良なるも充實量、比胸圍等の比較値に於ては不良なるものあるを多くの統計研究によつて示し、選手的選擇に當つて注意を述べた。

本邦人に於けるシチョーセルウマツクオリフ體質型分類の應用、特に身長と胸骨長及び胸骨間距離(上腹長)の關係に就て

島 誠 郁

金澤地方の男女中等學校生徒に就て體質を分類し呼吸器型四十二% 消化器型四十% 筋肉型十五% 腦型三十四%なることを發見した。更に各體質型の胸骨長と上肢長との關係に就て述べ、運動選手に罹病率の大なる原因の一つは此の體質に注意せざることにあると結論した。

## 大きさの知覺に関する一實驗

谷 本 撥 一

我々が事物を見る時に視られた事物の大きさは距離が近い程大になるが普通である。然し或る範圍内に於ては距離の變化にもかゝらずその大きさは不變である。かかる現象は如何にして起るかを實驗的に説明せんとするものである。



## 遊戲による性度判定の試み

體育研究所技師 松 井 三 雄

遊戲の性別を質問法による結果から統計的に示し更に之の遊戲の性指數から兒童の性指數を算出し、體育を更に性度から見て個別的に指導する必要があることを説く。

## 體力と學力との關係

明星學園 前 島 治 吉

小學兒童の體力測定の結果と學業成績との關係を相關法によつて明にせんとするもので肺活量、比胸圍と學業成績とは多少關係あるも、その他のものとは殆ど關係が見られないことを述べた。

## 拍子と運動に就ての一考察

體育會體操學校教官 富 永 た か

拍子が初にあつてそれに運動が結合するのであるといふ立場から、實際の場合の拍子と運動との關係を考察せるものである。

## 律 動 體 操

體育研究所技師 大 谷 武 一

律動的興味が日本體育界に現はれて來たに際し、歐米の體育界に於ける律動運動の位置、その系統等を説明したものである。

## 人間教育と遊戲指導

青森師範附屬小學校 高 島 寛 造

遊戲の發生より説き起し遊戲の生命を論じ更に遊戲の人間教育上の價值に就て述べ。

## 握力計に關する一實驗

體育研究所 山 田 敏 正

長年月に亘る握力計による實驗から

(一) その發達過程

(二) 握力を以つて個人の筋力を代表せしむる可否の二問題に就て考察したものである。

## 兒童遊園のプランに就て

關東廳體育研究所主事 山 本 壽 喜 太

社會狀態殊に都市に於ける兒童の環境より歸結して、兒童遊園の設立を力説し遊園の設計に就て詳細なる意見を述べたものである。

## 第 二 部

## 運動競技選手並無爲競技者の體力測定成績に就て

沼津商業學校醫 稻 玉 信 吾

體育の指導に體力測定が必要なることを述べ、運動選手

の體力と無爲競技者の體力とを各方面より比較研究せし結果によりその所以を明にせるものである。

## 運動競技選手の學校卒業後の健康狀態に就て

稻 玉 信 吾

選手の卒業後の健康狀態並罹病狀況、死亡率に關する調査を發表し、其の結果により運動競技選手は特に學校卒業後に於ても適度に或種の運動的練習の繼續を奨励したものである。

## 體操學習の形式

體育研究所技師 酒 井 將

學習の意義。學習と教授より説き起し更に學習の形式に關する精細なる説明をしたものである。

## 體操科教材の有機的組織の研究

體育會體操學校教官 杉 本 正 信

運動成立の要素、體操科教材の分類及び體操教材實施上の組織を論じ、教材選擇の根本原則を述べた。

## 日本に於ける競技記録の變遷に就て

東京高師教授 野 口 源 三 郎

日本の各競技に於ける記録の發達の跡を尋ね之を世界の

記録と比較研究せるものである。

## 射 教 の 體 育

山 田 觀 哉

心育と體育の合一の理を述べ、射が此の心身合一の教育なる所以を論じ體育としての將來に言及したものである。

## 大學豫科生徒の入學の際の活力指數と爾後の學習狀況との關係

日本大學教授文學士 渡 邊 徹

同 心理學教室 是 利 守 衛

入學試験の時に行つた肺活量の測定成績から活力指數を算出し、之と入學試験の學科成績及び入學後の學習狀況との相關々係を調べ低けれども總て正の關係の認められることを明にした。

## 運動練習過程に就ての一考察

體育研究所文學士 山 根 薫

白鼠の色々な條件の下に於ける迷路學習の實驗から運動の練習過程に關する一般的事實を明にせんとする企から行つて實驗結果の報告である。

## 運動の精神作業に及ぼす影響

土 永 間 三 郎

加算法と抹消法とを體操の時間の最後に課し各種の運動がかかる



精神作業の正確度及び作業速度に如何に影響するかを研究したものである。

### 腹本位體育運動に就て

藤田 靈 齋

今日の體育運動の缺陷を述べその改善案として所謂腹本位の體育運動の必要を主張したものである。

### 體育は獎勵すべくして斷じて濫用すべからず

星野 孝三 郎

先づ演者の體育觀を述べかゝる體育獎勵の前提として體力制度の必要なる所以を説き、一齊教授の弊を除去するために體力を基礎とした個別指導を力説したものである。

### 女子と家庭用按摩術の習得

熊谷 主 膳

按摩術を家庭體操の一部として用ふる時にはその効果の著しいことを説き、女學校の一科目として之を授くべきであると述べた。

### 大阪東京間競走に於ける實驗に就て

體育研究所技師 小笠原 道生  
外 五 名

昭和四年六月二十三日より八日間に亘り舉行された大阪

東京間四百マイルの長距離競走者に施した各種の實驗及び測定に關する意見を述べたものである。

### 酸性食及アルカリ性食物の運動時に及ぼす影響に就て

高田 守 道  
奥山 道 世  
山 來 實

酸性食及アルカリ性食をとりたる場合、運動前後の尿中の乳酸、磷、全窒素の量を比較した研究である。

### 腕の運動について

東京女子體操音樂學校長 藤村 と よ

各種の腕の運動に就て精細に説明を試み、腕の運動を行ふ際には呼吸との關係、腹及び腰との關係、重心との關係等々を注意することの必要なるを述べた。

### 競走發走に於ける反應時間の研究

中村 弘 道

スタートに於ける反應時間と種々の條件の下に於て測定したる結果の報告であつた。

### 體操科教授要目中の行進遊戲に就て

東京府立第三高女 池田 久 光

行進遊戲が近時大いに脱線しやうとして居るを見、之に正しい方針を與へることの必要とその具體案を説きたるものである。

### 發育概評の適用に就て

東京府立八中校長 岡田 藤十 郎

身長、體重、胸圍を測定して年齢別に其の平均を求め又別に一定の標準に照して發育概評甲、乙、丙を區別する方法が個人の身體の發育の良否を制定するには不適當なる理由を明にし一般の注意を促したものである。

### 女子體育運動指導の一端

神奈川県女子師範 小幡 安

女子の體育運動に關する各方面よりの研究を總括し、女子體育運動を指導するに就ての注意事項を身體的及び精神的兩方面より述べたものである。

### 異常兒及び虛弱兒の取扱ひと其矯正

神奈川県足柄下郡吉濱小學校 岩本 岩次 郎

兒童の身體的個人差の大なるを述べ、體育運動はそれに

應じて變化あるものでなければならぬことを明にし、更に異常兒、虛弱兒の取扱ひ方とその矯正の實際的法策に言及したつもりである。

(此の發表はいづれ詳細に本誌に發表させていたゞく考へであります)

### 基礎ある者の練習形式

前島 治 吉

或る運動に就いて既に練習を積みたる者が、更に練習を重ねる時にはその練習効果線は如何なる形をとるかに就ての實驗的研究である。

### 聾啞生の體育に就て

千田 民治 郎

演者が聾啞生に施しつつある體育法の報告であつて學校體操、連續體操、旗體操、發聲體操、律動體操の諸項目に分類されて居る。

### 國民保健體操に就て

遞信省囑託 中谷 重 治

國民保健體操(一名ラヂオ體操)の創案の經過及び現在の普及狀況に關する報告である。



## 運動競技者の體格に就て

大 槻 嘉 男

金澤市六中學校の運動選手の身體的測定の結果を報告し演者は更に此の體格は競技種目と一定の關係にあることを述べ運動種目に應じて體格の型の分類を試みたものである。

## 椅子對抗作業姿勢表示標準としての座高三角法

京都市室町小學校醫 豊 田 順 爾

演者の座高三角法とは椅子に腰をかけた位置に於てその人の座高を基礎とした一つの圓錐體を想像し、これによつて椅子に腰かけ机に對して作業する時必要な諸條件を簡單に表示し得るやうになしたものである。

## 行進に關する一考察

東京府立第四中學校 船 曳 富 太 郎

歩行の際の時間的經過、歩行の速さ歩幅等に就ての實驗的結果の報告である。

## 身體と精神の相關々係に就て

船 曳 富 太 郎

智力と學力との關係を明にするため、學業成績別に身長體重胸圍等を比較したる結果を報告し、又學者及び學說と

身體との關係を見るに、歴史上の學者の學派と壽命との關係を調査したる結果である。

## 動物體操

故東京府立第五中校長 伊 藤 長 七

動物體操の由來、特徴を述べ

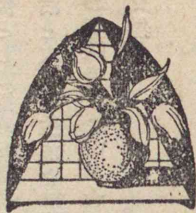
- 一、鶴の羽搏き
  - 二、龜の首廻
  - 三、猿の木登り
  - 四、熊の胴振り
  - 五、犬 歩 き
  - 六、鶴の飛び立ち
  - 七、鶴の空翔け
  - 八、鶴の羽收め
- の實演をなす。

## 無呼吸時間測定の價值にいて

稻 玉 信 吾

無呼吸時間と心臓比數及肺活量との相關々係を述べて此の無呼吸時間測定が小循環系統の機能を判知する一簡易法なることを力説した。

—(了)—



## 疑問を見詰めて

横濱・共進校 杉 山 嘉 行

熱海行の列車は今し東海道を西に驀進して行く。

私の隣席には田舎の老婆がゐる。何か時々手提から出しては口に収めてモグ／＼動かしてゐる。前方には何處か在所へでも行くのか、職工の妻らしいのが座して、疲れた半睡の眼を窓外に移し、無雜作に投げ出された乳房には、無心の嬰兒が取りついてゐる。傍に六七歳の腕白さうな男兒がゐる。走馬燈の様に變轉する車窓外の景色に好奇の瞳を見張り、其の母なる人に様々の質問の矢を放つてゐる。

「母ちゃんあれ何に?」

「あれ誰の家?」

「なぜ汽車速いの?」

「なぜ煙出すの?」

「なぜ川長いの?」

母は窮し答へんともせず、寧ろ煩さげである。何時か目を閉ぢ、頭を俯せ、榮譽ある沈黙に入つて了つた。

私は此の時思ふた、そして又嘆いた。二葉にして摘み取るゝ科學心の萌芽を。彼等の中にも第二のエヂソンありアルキメデスあるものと……。

私は眼を閉ぢてデツと幼時を追憶して見た。飢える様に求め乍ら與へられなかつた當時の教育を。伸びんとして壓へつけられた劃一主義を。

良き指導者無きものは總べてが二葉にして枯れ行くことの嘆きである。

仰いで蒼穹を見る時、日月星辰燦として輝き、雲の去來風の動き、歩々の一石一草にさへ無限の感興湧ものを……



私はエヂソン傳を興味を以て讀んだ。異常の才分に恵まれながら、一個無能の鈍物として扱はれたるその幼時に同情の涙を落す。そして又、彼を信じ、啓發して行つた慈母のあつた事を特に喜びとする。金剛石も時に瓦石に等しと看做さるゝことあり、伸びんとする子等の力強い胸奥の響を聞くことだ。理科學習は茲に生氣湧く。

愚問あり、奇問百出が子等の常だ。私は何時であつたかはつきり記憶しないが或學習の終りであつたと思ふ、突然一兒より奇問提出し「蛙のお臍は何處にあるか？」奇想天外だ。暫し啞然たり。笑ひは將に口を突いて出でんとして止む。靜思して後答ふ。それは奇の如くにして奇ならず。子供として極めて自然的必然の疑問であつたのだ。子供の生活と大人の生活とは絶大の懸隔がある。子供の興味は大人の興味ではない。子供の利用は大人の利用ではない。疑問又然り。

又斯くの如き事も思ひ出す。「動物とは何か？」「雀つて何

眺めた。

打開けば五つの雄しべは一つの雌蕊を圍み、柱頭の先既に割れたのがある。然うでないものもある。更に花の底には甘き蜜の泌めて虫の來るを待ち詫びてゐる。路傍の花にも生命の動きは宿る。實に禪の言ふ一椀の水も無妙の眞諦を語るとは、斯くの如きの意か——非ずか——。

激測と動いた子供の疑問は一步室内に入ると妙に歪む。教へんが爲の教授の弊か、學ばんと努める子供の罪か。鐵筋の屋舎幾許の價值がある。疑問少きを嘆く勿れ。問題惡しきを託つ勿れ。自然の流れに返す處に疑問は起り問題は湧く。正しい独自の觀察から具體的分析された生氣ある問題が産まるゝのだ。

私はよく子供の理科學態度の成長を見んと努める。それは物自體から湧く鋭き疑問を眺める事が一法である。子供の精進の姿がまぎ／＼と見出さるゝからだ。

私は研究の態度と云ふものを自然科學發達史の上から、個人の研究過程の心の流れから、稍と整つた形に認めてゐる。そして子供の疑問をそれに照して見る。

ですか？」同一類の質問は同一生徒により二回迄提出された。これ等が此の子の研究問題となつてゐると見える。判つた様で判らぬ、答へられさうで答へられぬ、奇問だ然らずば愚問だ。暗夜に面を撫でられた貌だ。結局それは分類を要求する疑問なるを確め得て後、彼を満足させ、吾自らも安堵した。表現形式の整はぬ時代に得て有り勝ちのことだ。進歩途上の悩みだ。導き行くが教師の熱だ。

私は一日教へ兒の四、五を伴つて附近の山に登つた。初夏の陽の光りは三浦一帯の丘陵を特に美しく見せてゐた。青い海も見える、遙か空と溶けたあたり、上海行の汽船か煙を残して去り行く姿も眺められた。子等は凱歌を擧げて打喜んでゐた。フト目を落すと、山かげにホタルブクロが可憐の姿にうなだれて人目を避けて咲いていた。子等の一人が素早く見附けると、吾も／＼と走り寄つて無慘や大半は既に採り盡くされてしまつた。子等は暫くはその形狀の美に狂喜し、胸に挿し手に弄んで歩んでゐたが、小半時にして一兒のそれを持つものなしである。

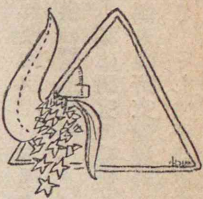
私は子供の自然性なる興味研究心の極めて淺薄なる姿を

それは五年前の或日だ。私はYの授業を見た。Yの受持兒童は鋭い觀察をなし、鋭い疑問を起し、優秀な問題を多く産むのだ。私はこのコツが判らなかつた。Yの癖としてよく學習を停止し、問題を子供自身から起す様導くのだ。『こゝらで何か起る筈だが』『ハ、ア無いと見えるね』かう考へるとかうなるが』……等——暗示的に突込んで行く。Yが將に言はんとすると、兒童は待つたと聲をかける。誰からかきつと問題が浮び、それが全體の學習の問題となり解決に向ふ。私は思つた。このコツ此所に在るか、疑問を誘發する方途唯にこの一事に限るべけんやである。

私はよく發明發見史を耽讀する。それは種々なる意味に於いて價值が多く興味が深いからだ。その一つを挙げたいそれは現時の燦然たる物質文化其のものゝ縱歴史が判るか。成長の経過が如實に展開さるゝからだ。蓄音機一つにしても、幾人幾十人もその努力が集積して出来上つて來たものだ。

「必要は發明の母なり」の諺は眞である。吾々の先人が授けた鋭き疑問の眼が、發明發見を産み、この文明を築き上げて來たのだ。疑問は尊い。粗野のものである。





# 科學部(同好會)の經營

川崎・旭町校 新 倉 隆

## 組 織

運動部、科學部、繪畫部、音樂部、工藝部、書道部、ビ  
クニック部、珠算部、園藝部、文藝部(新設)漢學部、語學  
部。

## 目 的

色々な子供達の趣味によつて、一般正課外に、一面の束  
縛と他律を免れない正課時中に求め得られない點まで進ん  
で見たいと考へてゐる。とかく水平線上の仕事は理論とし  
ては何れのところにも成立するが、之れが實行に當つては  
一面の悲哀はあるので、曰く放課後であり、休日であり、  
子供達は年齢學年の超越であり、他面に家庭の十分なる理  
解と、指導者直互の心地よき精神がなければならぬ。  
言換へると、官公立學校に對する私立塾の様なもので、

趣味的であり、専門的であり、個人的である。こゝに自由  
研究があり、眞の創作、發見、鑑賞が生れると信ずる。

## 科學部の經營

### 必要觀

科學部は、科學(自然科學)方面に特徴あり、趣味ある熱  
心な希望兒童に對し、獨創的自由研究をなさしめ、より正  
しく、より深き科學的生活に導き、社會文化の發展に貢獻  
せんとする人格の養成を目的とし、此の方面に趣味ある子  
供達を對照として、子供達の心理發達過程よりの欲求の變  
遷を眺め(夢現的、超現實的、感覺的、疑問の追究が本質  
的に)殊に都市兒童は環境の相違により、例へば自然物に  
しても田舎兒童の自然物そのまゝを眺め得ると異なり、一  
自然物も人的關係より見ること多く、一面汽車・電車・エ

レベター等の文化の產物に多く接してゐる。とかく都市の  
子供は經驗内容興味點其の他五感の刺激が田舎の子供に比  
して甚大で、知識は雜然として淺く博い。爲に驚異の範圍  
は廣大で求知慾は尖鋭的である。

一面學區に多くの會社工場をもつ我校の父兄達は、歸つ  
ても遊ぶに適當の公園もなし、學ぶに適當の部屋も興へら  
れぬ爲に、學校から歸ると悪戯ばかりしてゐるからなんと  
か遊ばして置いてもらひたいと言ふ様な土地の状況からも  
考へ、どうかして獨創的な自由研究に適當な機會を與へて  
やりたいと考へての仕事である。

## 經營の目標

此の求知慾旺盛な兒童性、先鋭的な都市兒童の特異性に  
立脚して、よりよき境地の提供に力める。

理科室、手工室一切の開放  
兒童圖書館の開放及び學校園の一部開放  
製作品材料に對する特點  
教師の特別輔導  
大いに求めんとする時、大いに之れに應ぜよ。  
鐵は熱せられた時に打たねばならぬ。  
理科のモットーへの理想的實現

小實驗より大實驗へ――

標本より 實驗場へ――

學校より工場會社自然場へ――

部分觀察より統合實習へ――

兒童達の科學心の趣くまゝの生活をさせてやる。

## 組 織 (内容詳細略記)

一、部員研究に興味ある尋四以上の男女、本人の希望、受  
持職員の推薦、家庭の賛同ある兒童中より適當と認めたも  
のを部員とする。

二、研究日――定日學校の正課時間終了後二時間乃至三時  
間本年は毎週金曜日及休日。

三、研究方法――春夏秋冬の氣候、晴雨、日の長短を考慮  
し臨機に行ふ。

四、指導者 五、研究所 六、研究材料等(略記)

## 施設事項 (内容詳細略記)

これ等の部員の希望に依り、次の施設を臨機に行ふ。

### 一般的事項

作業日……創作玩具、獨創實驗へ……

發表日……趣味的方面より理論研究へ……

觀察日……遠地の校外觀察及工場、會社、河港等



本校校外觀察材分布圖等を参照す。

愉快な一日を送る内に科學生活の向上を計る。

特 殊 的 事 項

特殊的事項は前者の研究を督勵し、一面に情的教育へと考へて行つてゐる。

科學部發表展覽會

▲獎勵の意味で學期一回位開催することあり、兒童方面の研究製作品のみでなく、文明の先端的の玩具をも家庭より集め展覽する。

▲理科祭の發展 毎年二月十五日、

慰靈祭、其の上理科及び科學部學藝展覽會、情的教育、理科方面の展覽發表以外に、本部の研究物の展覽及び發表で色彩を加へる。

▲小冊子の發刊 部員計畫中

研究の現狀 (内容詳細略)

研究心萌芽の發展的現はれを、本學期に例を取れば廢物利用が行はれ、繼續的觀察が行はれる。常に起り來る研究の現はれは次の様である。

覽會場内の人となり、工場會社の人となるのである。

是等上級兒童の興味的研究に感化を受け、幼學年兒童(尋四以下)にも加入を希望する者が多い。

この方面の研究物 昭和五、一、研究部述

『本校幼學年理科教授方法に關する考察』

▲研究の結果に成る作品の一部

A ゼンマイ時計の舊物利用

1 自動式點滅器 2 店頭照明點滅反射 3 建築物の配電模型

4 蒸氣船(アサヒ)速度一分間二十四米

B 電池利用 C 玩具用ビストン利用 D ラヂオ鑛石式

E 標本動植物標本の蒐集 F 飛行機、自動車の模型

▲其の他の結果

學習室の整理(教授前の準備、教授後の整理)自發的リダーとなり、當番指揮、日常理科學習の準備など相當まで任し得る。部員の及ぼす學級なり學校なりへの小社會への感化が大きい、即ち學校全體の科學的活動のレベルの向上となり、一校の學習態度の向上の一根源となる。

反 省

一般的理科教育への回想

校外教授理科教材分布圖

同理科教材分布一覽表(六年の例)

課 教 材	所 在	距 離	備 考
一三 石 炭	淺野セメント會社	五キロ三〇m	會社と打合せの上人數少なき爲よ
一四 ヤンモニ	川崎製水會社	一キロ九〇m	く便宜を與へらる。
三一 音	日本蓄音器會社	二八〇m	
三五 電 燈	東京電氣會社	一キロ四七〇m	

理科教材と郷土生産品との關係調査、市内工場會社其他産業狀態一覽表、植物教材分類一覽表、動物教材分類一覽表、日常化學藥品分類表等の活用範圍の擴大により、隨時昆虫などの自由蒐集をなし、質疑をし、日曜、祭日、野外寫生の歸り休暇など、自發的に動植物の採收をなす者出づ。

こうして、子供達は棄却箱からゼンマイのボロを拾ひ出して自動式點滅器を作り、或は自分で各種の檢鏡を行ひ、時の記念日等に同好會で時計を修繕して見る。其の他玩具用ビストンを利用して蒸氣船(アサヒ)を作り、上げる等面白いものが色々出ます。かくして或日は實驗室に入り小さき研究者となり、或時は私の小研究發表となり、或日は展

この様に子供達と遊んでゐる間に、一般理科教育の實際的價値の向上策は如何と言ふ點に考へさせられる。

私達は參觀して教育法や、設備の立派のに驚かされるが美しき教法、美しき整列、そのみがどれ程の價値があるかと靜かに考へた時に、彼のベスタロッツの

「綴方學校はある、書方學校はある。回答學校はある。然し欠けてゐるのは人間學校である」

と言つたことも、單なる古語として捨てべきでないかと思ふ。

使用馴致の生活の價値を認めた。

初めは失敗もあり、器具の破壊もある内に、漸次自覺的作業となり、失敗も破壊も少なくなる。所謂自覺作業は學習能率の向上となり、改良工夫の出發點となるから、出來得る範圍の機械器具を自由に使用せしめる事を工夫せねばならない。



## 二宮先生の顔

足柄上・櫻井小學校 二宮尊徳研究部

肖像畫を描いてゐる時は、丁度その人自身の持つ世界を旅行してゐるやうな氣分に浸る――。

と、マリローランサンが云つてゐるが、これは獨り彼女のみの感情ではなく、肖像を描く何人もが経験するところであらう。

云ふまでもなくその風貌は彼の全性格を表現して居り、随つて此の風貌若くは性格とは自らその世界を異にするは當然である。而かも彼或は此をもつともよく表現するには、私自身を彼にまで高めねばならない。そして深い感性と高い理會と、それから尙ほ神技とを要する。

二宮先生に對する憧憬の念漸く高まるに

従つて、先生の肖像なるものが坊間に流布されてゐる數は尠くない。そして各々はその眞の二宮先生だと自賛してゐるので、何れを探つて以て眞とすべきかに迷はしめるので、左に先生の風貌の主要と在來流布されてゐる肖像につき、その由來と短評とを述べて見やうと思ふ。

### 一

先生の人となり乃至その事業を知るものは、何人も彼が容貌魁偉で剛健なる體軀の持主であつたことを想像出来るであらう。身長五尺五六寸、二十貫に近い體重を有し、總つり鬚の顔、眼光輝々として音吐雷の如きものがあつたと云はれてゐるけれど

「お氣に入らぬときは何ともいへぬ恐ろしいお顔をなさいましたがお氣に入つた時は又何ともいへぬ愛らしいお顔をなさいました。」

と、九年の間先生に侍女として働いた渡邊梅女の語るところも又眞實であらう。

先生を最もよく知り最もよく信任した大久保忠眞公は名君の譽高い人であつたが、公は先生を斯く語つてゐる。

「今は太平の世なればこそ自分は彼に主君として臨んでゐるが、之れが若し亂世であれば全く位置轉倒彼こそ實に三軍を叱咤すべき英雄となつたであらう。」

と、又岡田良一郎氏に云はしむれば、先生には十二の善相があつたさうである。一面カインの面影を備へ一面聖者

の性格を備へた彼はその天分を多年の櫛風沐面とに依つて渾然大成したのであらう。

### 二

先生と同郷で十歳の後輩であつた曾比村の劍持廣吉氏は、先生の肖像を得るために最も骨を折つた一人である。

彼は青木村を知行してゐる川副氏の家臣で日夕先生に接觸してゐる荒川泰輔氏が彫刻をよくする話を聞いて伽羅の木を與へて先生の肖像を作ることを依頼した。それが三年の後漸く完成したので自らこれを二宮家に携帶して家人に示したところ、よくその形を備えてゐるとの讃辭を得た。後更に二體を刻んで二宮家と相馬家とに頒つたが、自分の分は後年貸失ひ、相馬家の分は今

市の二宮神社の御神體となり、二宮家のものはそのまゝ現存してゐることである。井口丑二氏著大二宮尊徳口繪參照)

先生は生來見えを喜ばず、自分の肖像を作るなど固く禁じて居つたので、

荒川氏は先生にかくれてひそかに折るうかがつては鑿を運んだのであつた。

その技神に入らずと云へども、その苦心には買ふべきものがある。劍持氏は木彫のみならず、尙ほ交友の間柄なる名畫工岡本秋暉をして、先生が天保十三年（五十六歳）の夏小田原の矢野管

右衛門宅に在るを幸ひ、障子の隙よりその姿を寫さしめ、多數の寫生のうちから一の畫像を完成したものを秘藏した。これも、後、先生に師事した同藩士栗原長次郎が借用して、毎月二十日

先生の命日に同志の集合の節これを床の間に掲げて禮拜することにしてゐたが、明治三年同藩士で書をよくした小山某に囑して先生愛誦の中庸中の一節

誠者天之道也 誠之者人之道也 誠者不勉而中不思而得

と云ふ語を選んで贊をさせた。ついで此の畫像は後年小田原に二宮神社が創建されて、此處が報徳社員の集會場に當てられるに及んで、同處に移されたのがいつとはなしに同神社の寶物となつて現在に至つてゐる。

この畫像が劍持家から離れたについては、栗原氏が劍持氏に無斷で贊をした爲に劍持氏が激怒の餘り、けがされたものは要らぬと云つて突返したのだとも云はれてゐる。で劍持家では更に



改めて別に隣村岡本村沼田の西念寺住職松陰師をわすらはして模寫せしめ、現在これを藏してゐる。此の畫像は前に所持した秋暉のそれとは大分趣を異にして、これはむしろ湯本の福住家の所藏のものに近いやうに思はれる。福住家のものは先生の高弟であつた正兄翁が、生前秋暉のを觀て、最も如實に先生を寫してはゐるが、強いて難を云へば幾分きつ過ぎると云つて、自ら早川村におつた畫工平林探溪をして秋暉の畫像を基として別に一本を作らしめたのであるといふ。これは袴を着けず、背後に本箱を配して餘白に正兄翁自ら先生の道歌數種を記してゐる。

## 四

以上が劍持廣告氏を中心として出来

た肖像であるが、現樞密顧問官岡田良平氏の祖父岡田左平次郎氏が、嘉永六年九月七名の同志と共に今市に日光神領仕法中の先生を訪ね、櫻秀坊に於て大道を授かつた時、ひそかに自らその姿を寫して持返つたものを複寫して社中に配つたが、後、その子良一郎氏がそれを基にして江戸の畫伯春木南溟に描かしめた。此の原畫は先生六十七歳の時のもので、秋暉の畫像や荒川の木像に見るやうなたくましさはなくて丸々と肥滿つて幾分青味を持つてゐる。先生は晩年俗に云ふ水氣を病み、此の頃は一時小康を得てはおつたが、その面影が此の畫像に現れたものでもあらうか、とにかく良一郎氏自身は先生の眞を傳へたものとして自賛してゐる。氏は更に後年(明治四十二年)東京美術學校助手長愛之氏に、此の畫像と小田原藩士であつた男澤茂太夫氏の所藏にかゝる木像とを參酌して塑像を作製させた。是は修正又修正して、良一郎氏の校閲數度の後に成つたもので、是こそ一點の難すべきものなき逸品だと良一郎氏は述べてゐる。ところが豈計んや男澤家の木像は本來先生の面影をどの點まで正確に傳へてゐたかは少々疑問に屬すべきものゝやうである。今その由來を述べれば、男澤茂太夫は先生に師事した熱心な報德信者の一人でかねてから先生の肖像を得たいものと欲してゐた。かつて先生は小田原の報德役所に居た時があつた。或る朝のこと、先生はつと座を離れて縁端に突立ち左手に大學右手に刀の小束を握つて天の一點を睥

睨したまふ動かざること二時餘、その形相の物すごさに門弟一同只袖を引合ひ、眼を見合しつゝ、發狂でもされたのではなからうかと打案じた。すると突然先生の態度は一變して、これは又どうしたことか呵々洪笑どんな喜びもこれに及ぶものはないだらうと思はれるやうに打ち興じつゝ座に返つた。そこで門弟共がその理由を尋ねると、先生は幼少より好んで大學を讀んだがその中の一ヶ所にどうしても同意しかねる點があつた、で今日は意を決して此の章句を切り破らうとしたのだけれども、改めて考へ直して見たら、流石に聖人の言句だ、確かにそれは間違つてゐないことが今始めて分つたのだ、自分はこの嬉しいことはない、と語つた。

## 六

次に、縣下の諸學校に大分流布され

で、男澤氏は印象深い此の場景を當時小田原在寺町に住した佛師渡邊某氏に刻ませた。その顔は何か寄るべきものがなければとて先生の第三郎左衛門氏が先生に酷似してゐると云ふところから、それを大體モデルにしたが、男澤氏は本來先生の容貌を備へんとするものが主でなかつたから、それは僅かに參考にしたに止つたので、全く類形的で、肖像としては取るに足らないものであるのに、これを原據にして完全だと云ふのは却つて良一郎の自信を疑はしめるものではなからうかと、小田原二宮神社司草山淳三氏も言つておられる。

尙、此の外にも先生の肖像として傳へられるもの一二に止らないが、大體以上の如くその出所は劍持家と岡田家とから出でゐるものであつて、劍持家より出た畫像は一代の名匠が、幾十のスケッチを基礎に完成されたものだけあつて(このスケッチは現に劍持家に所藏す)單に繪として觀たゞけでも他に比類なき逸品であることが斷言出来るし、これだけの技倆を有する名匠



こそ最もよく先生を觀、且つは深い理會を持つてゐたのであらうと、信ぜられるので、私達をして一層是こそ二宮先生だ、と容易に先生を彷彿せしめられるやう感ぜられる。

尙、是れは先生の弟三郎左衛門氏と瓜二つだと云はれ、又同家から先生の生き寫しだとの證言も與へられてゐるのである。

福住家のは正兄翁が前述の如く更に之を修正すべく描かしめたものと云ふけれども、遺憾ながら迫力が乏しい。而して顔のつべりして、顎骨の貧弱なところ、口舌の人であつて實行の人であるとは思はしめない。これは前者は最も油の乗りきつた全盛時



二宮尊徳先生肖像

一つは筆者の如何にも依ることは無論であるが、秋暉の畫像がいかつ過ぎると云ふのは私達の受ける感銘からいふと當つてゐないのである。(寫眞參照)

本校では、先生を生んだ、そして先生をして他日世界的偉人として仰がしめる素地を作つた土地に在り、且ては現代教育と先生との關係淺からざることを信ずるが故か、夙にこの方面に於ける施設に微力を致して來たのであるが、今回教育勅語換發四十年を記念して、二宮先生の肖像を大方同好の士に頒布することを企てた。就てはその趣旨から云つても場所から考へても、充分信憑すべきもので、又價値あるものでなければならぬことを自覺し、以上述べたやうな理由から、小田原二宮神社の寶物を選び同社司草山氏の厚意に依つてその肖像の部分を額面用として寫眞版にしたものであるから、充分先生を彷彿し、且つは原畫の面影をも知ることが出来るであらうと自負するものである。

因に同校では充分信憑すべき肖像を額縁を附けて縦二尺一寸横一尺六寸に仕立てたものが實費金五圓(荷造費及送料は別)で、希望に依つては寫眞のみも頒つ事になつて居るやうです詳細は同校に御照會下さい(編者)

## 生ける二宮尊徳

相 模 次 郎

○ 二宮尊徳は教科書に在るからでもあらう

が、訓育上の施設や教授上の活資料にしたといふので、小田原の二宮神社に他府縣の小學校や、中等學校から澤山、いゝの照會がまゐるといふことを、同神社の草山氏から聴きました。

教育上に活用するために——といふことで、私は尠からず興味を持ち、更に具體的にお尋ねしたのであります。

他府縣に於て、教育的活用上、どういふ點に着眼されてゐるかのあらましと施設の一部を紹介致したい。

○ 訓育の施設方面では、尊徳少年時代

育上に生きてゐるか、具體的に明かになりまして興趣の深いものですが、茲ではあまりに二宮研究に入り過ぎますから差し控へますが、唯その大ざつばなところを摘録いたします。

○

宮神社境内に在る銅像に關する寸法の照會もあり、尊徳祭を行ふために分靈を奉祀したいから神札を希望する旨や祭典日や記念日等の問合せもあり、研究や教材の資料、訓育の資料等のために、尊徳に關する色々の参考書や、額面用や掛圖用の畫像類繪葉書類など、諸方面にわたつてゐる。遠く朝鮮や九州四國方面、奥羽地方や關東地方、中部地方近畿地方等の小學校中等學校から照會が非常にあります。

立ち入つてその校名や研究・施設の方向を觀ますと、如何に二宮尊徳が教

二宮先生少年時代の銅像は、今、各府縣市の小學校中等學校に二百有餘建てられて有ります。殊に神戸市内の小學校と幼稚園には全部有るといふことです。御大典を記念すべく、中村貞吉氏が熟考の結果最も意義深いものとして夫妻で寄贈されたものである。

明星中學校から銅像の臺石の寸法の照會があつたそうですが、同校が二宮尊徳を訓育の中心として教養してゐるといふことを中村氏が聴いて寄贈されたとのことである。



○ 二三年前にさかのばることですが、鹿兒島縣の草牟田小學校或學年の兒童は、受持の先生が東京方面に出張の際自分達が平素お使、小守、手傳、母の看病、母の按摩、野菜の自力栽培、勉強した褒美——などによつて得た錢を出し合つて、二宮先生の神前に捧げて貰ひたいと托したといふことです。

○ 四國の某農業學校では、二宮先生を訓育の中心とする計畫のもとに、神札の奉迎式を講堂で行ひ、翌日、校庭の常盤木茂る所、折柄梅花のかをる二宮神社に職員生徒一同と來賓參列し、鎮座式を舉げると、附近の村有志非常に共鳴し、投餅や投物景品の寄贈多く、

廣い運動場も人でいっぱいとなり、午後は、其の校と近くの商業學校の生徒對抗角力競技の後、素人角力があつてその日は稀に見る盛況を呈し、その學校では感激に満ちたといふことであります。

○ やゝ方面が違ふが、報徳教普及會で二宮金次郎活動寫眞講演會を企て、東京府・市と横濱とに於て數個月の間に、東京府や各學校若くは青年團、郵便局や、同會等の主催で、四十個所の多きに最近開かれたこともあります。

○ 二宮先生と教育的關係がありますから言添へたい。中等學校生徒や、小學校兒童の他府縣からの遠足や旅行の際

に、小田原の二宮神社へ參拜が非常に多く——栃木、茨城、群馬、埼玉、東京、新潟、長野、静岡、愛知、岐阜、滋賀、大阪、兵庫、和歌山、熊本、鹿兒島等々の府縣から最近見えて居ります。

○ 吾が二宮先生は、教育上に生きて益々その生命の永いものである。



## 自覺した實補の生徒

都 筑・中 川 安 藤 爲 次



補習教育の眞の振興は生徒の自覺にあるといふ信念から生徒の自覺の扉を開くことに邁進しました。

『諸君は牛や馬ではない、人である。いつまであまりに澤山の手綱によつて御されてゐるのだ。榮ある歴史をもつ補習學校の生徒としてあまりに消極的だ。あまりに受動的だ。いつまでも青年會の人達の鞭が鳴らなければこれだけに動けないのか、そろ／＼目を覺せ。大きく目を見開いてみんなの行手を見て見ろ。歩むべき道が判然と認められるであらう。その道を青年の若さを以て若人の燃え上る意氣を以て邁進しろ。若し路に迷ふ時があつたら正しき道に向ふ手綱をしつかりと引いてやる。青年會といふ親の脊から降りて一人歩きの出ぬ事はあるまい。いゝ加減に目を覺してくれ』

『先生、僕は僕達の歩く道がやつと判りました。一人で歩けると思ひます。きつと歩きます。今までは青年會の幹部の方や先生方に大變御迷惑をかけてゐました。これからは僕等自身で道を開いて進んで参ります。そして立派にやりぬいて今までの御厚志に酬ひたいと思ひます』

『よし、その意氣でしつかりやり給へ、必ず出来る』

若き青年は自覺した。生徒は自治活動をめざしてその血潮を燃え上らせた。向上の意氣にその心臓の熔鑪爐を灼熱した。そしてそれが次の様な實際活動としてあらはれた。

青年會の手によつて從來されたことを自分達ですること、就學出席の勧誘督勵、義務者調、不就學者の原因調査及其の對策、通學監督、級長、組長等の自發的活動。週番勤務と週番日誌。學級當番と學級日誌。掃除當番服務。學習法の研究。農事見學視察の計畫と實行。學藝會、研究發表會の計畫と實施。學用品の共同購入



校内作法の統一。奉安所に對して整列敬禮。謝恩寄附。夜學ニュースの發行  
右のうち夜學ニュースに就いて特に述べて見たい。

## 夜學 ニュース

夜學ニュースは、生徒が自分達の歩みの目標と、歩みの反省との爲に、毎週月曜日に發行するものである。彼等の心はこれによつて統一せられる。彼等の自治活動はこれによつて深められる。ニュースには被等の心の叫びがそのまま文字となつて表はされる。だから一字一句みんなはちきれん様な意氣の充溢したものだ。眞冬の夜九時に授業が終つてから、ニュース係は十二時—一時迄氷にきしむペンとこの爲に戦ひつづける。希望に燃へてゐる彼等生徒は、夜の更くることに寒さに何の苦勞も持たぬ。遠大なる希望に自分たちの開いた道を自分達の目でしつかり見つめて、正しく一步一步近づぐことに法悦してゐる。左にニュースの記事をあげて見やう。

十二月二十三日

□ つい昨日夜學が始まつたかと思へば最早一箇月は終らう

私達の標語は日本一の補習學校だ。

笑つて終つてはいけない、四角ばらず自然にほゝえまれる愉快な標語ではないか。

一月二十三日

□ 凍る地上に光を求めてぐんぐん伸び上る青麥の生命——

は理想に向つて邁進する吾等若人の心に何んとよく似てゐることだ。

青麥よ伸びよ。頭上には若い太陽が輝いてゐる。

□ 私たちも思ひきり走らう。思ひきり飛躍しやう。内容充實の理想のテープは張られた。鮮かな白線はすでに私等の飛躍を待つてゐる。

餅も搗かねばならぬ忙しい頃となつた。毎晩睡眠不足だお互にねむい。だがもう春はそこまで來てゐる。しつかりやらう、大きなよろこびは深い苦しみの後にのみ恵まれる青年かさねて來らずだ。

——春より大きなよろこびの春に恵まれやうではないか——

としてゐる。始業式の當夜から今夜に至る間何を學んだか否如何なる修養をしたか、出席率や就學率を高める爲の通學ではない。他人の爲めの通學ではない。眞に自己の補習學校である。お互に我が愛する自校の爲に、遠大なる理想と實行とをひつさげて新しい太陽に向つて突進しやう。

□ 週番の者より

十二月十八日雨が降つて居たので、狭い玄関が相當混雑するだらうと思つて、週番で注意してゐた。しかし其の豫想は見事裏切られた。何の事故もなく皆整然と歸つて行くのだつた。本當に何とも言ひ様のない感激にうたれた。高等三年、初等科などは廊下に整列して出て行かれた。

一月十四日

□ 本年度補習生のめざすところは内容充實だ、お互になかみをしつかりつくることだ。就學出席率に於ては以前から素晴らしい成績をあげてゐる。本年度こそはその輝く歴史上に、更に美しい内容充實の花をみんなして咲かせやう。

□

二月四日

□ 芝草の力、偉大な芝草の力を考へて見たい。踏まれても踏まれても大地にしつかと魂の宿を定めて、びくともしないあのなやかな細根の力強さよ。春の陽光に芝の若芽の息づく時、あの根にも喜の春がくる。小さいものの偉大な力。私達の補習學校も芝草の細根の様な僕等の力によりよき補習學校の芽を伸ばさう。寒さにも、眠むさにも堪へやう。春は眞近だ。内容充實の春は眞近だ。

□

新聞を讀まう。

新聞は社會の事相を知る教科書だ。今新聞を見ると金解禁後の日本の經濟界の動きや、議會解散後に於ける政界の動き、なほ遠く英國に於て國際的一大問題である軍備縮小に關する各國全權の活動狀態等が手に取る様に記されてある社會學教科書である新聞は、今僕等にあり餘る程の豊富な内容を提供してゐてくれる。智識の取得に遠慮はいらないただしお互に新聞を讀むのであつて、新聞に讀まれてはいけない。僕等の頭を——若い僕等の固まらない頭腦を、あ



まりに完全なものと過信してはいけない。新聞を讀まう、よき補習生として、よき社會人として、よき日本人としての完成の爲に――。

二月二十一日

『自らを鞭うつことば』

□

冷くキチ／＼ときしむベンのは

我等の心まで凍らせようとする。

だがそんなことでは驚かない。

お互に尊いたたかひの頁をつづるんだ。

□

教へる人が太い樹なら、若木は私達だ。

心から相いだいて、強く鳴り合はなきあ――駄目だ。

――風の日の森に素晴らしい「力」を見るよ。

三月四日

□

實力の世の中だ!!!くりかへして言ふ。

どんな立派な學歴があつても、そのもつてゐる實力なるものが薄つべらな知識で、その人格が賤しむべきものであつたならば、一般社

會に入られないばかりでなく、人として哀むべき生涯を過すのである。強いて形式的な學歴を以て飾る必要はない。決心如何によつてこの補習學校で勉強を深め、努力さへすれば立派な實力がつく。

昨年の秋、第二回の専檢を縣立高女で受験した研究科二年の長澤喜代司君は、十二科目中一度で五科目の合格證を得た。同君の奮勉に對して深甚の敬意を表すると同時に、我が中川補習學校の生徒の實力を表明したことをみんな自覺して欲しい。

### それからの歩みの跡

生徒が自覺してからの補習學校の成績はますます／＼良くなつた。

年 度	生徒數	就學歩合	出席歩合
大正一三	一三三	九八、五五	九五、四四
同 一四	一四七	九八、〇八	九五、八七
同 一五	一四六	九七、三三	九四、七五
昭和 二	一四七	九九、三三	九五、八〇
同 三	一五三	九九、三五	九七、六五
同 四	一五六	九八、五七	九八、二八

尙一ヶ年間に於ける皆出席者の状態も次の如く逐年良好になつてきた。

年 度	在籍生徒數	皆出席者數	百分比
大正一三	一三三	六九	五二%

とは權力にあらず、財力にあらず、村を眞に見つめる深さをいふのである。

生徒の歩みをしつかりみつめて、共に共に歩調を揃へて歩まねばならぬ。自覺により灼熱せる補習生の、熔鑪の火を消してはならぬ。教師の不斷の努力はいやが上にも熔鑪を灼熱するのだ。

華かではないが、芝草の力、あの尊い力にあやかるとの煉瓦積式に進むのだ。あの一枚一枚の煉瓦の力にあやかるのだ。

山崎 博 著

### 小學教育の破壊

四六版三百餘頁  
定價金 二圓

鈴木憲一・平島正夫共著

### 小學校に於ける詩の作らせ方味はせ方

四六版優雅特製  
定價一圓八十錢

東京・小石川・竹早町三六 郁文書院

### 教師 は!!

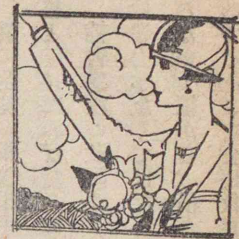
生徒が感激をもつて學校に來る。就學出席は何等の心配ない。とすれば教師は如何あらねばならないか。

眞に生徒の相談相手となり、指導者となり得る學力と人格とを持たねばならぬ。

補習學校の教師は、何時でもその村の村長になり得るだけの力がなくてはならぬ。その力を養ふことに努めねばならない。縦から、横から、表から、裏から、その村を見つめてこそよき公民教育は行はれるのだ。村長になり得る力



## 過去に顧み圖書教育の 今後に對する卑見



過去の圖書教育を眺めると、明かに二つの思想の流れが相對持して居つたことに氣付くのであります。

一つは所謂自由畫教育で、兒童の主觀的表現に絶大の力を認めて居る一派で、少壯教育者の中には相當共鳴者が多かつた様に思はれます。

他は永年の經驗ある教育者が、過去の經驗的成果による原理に依つて圖書教育を進めて居る一派で、一時は自由畫教育の叫びの高きにおされて鳴を靜めて居つた様でありました。

以上の二派は常に相對持して、所謂混沌たる状態を續けて來たのであります。

勿論圖書科が藝術的陶冶を主目的とする以上は、理論的には此の自由畫について誰しも異論あるべき筈はないので

横濱・一本松 三 浦 幹 雄

然るに、其の實際は如何なる結果を齎したであらうか。

理論から實際に説き及ぼんとする演繹的態度で、圖書教育の實際問題を解決しやうとした自由畫教育は、多くの人の注意は惹いたが、遂には大事な足元に氣付かなかつたため、世間からは放縱畫とまで言はるゝ様な結果に陥り、同時に圖案、用器畫等の不振を來たしたのであります。

當時極端な自由畫論者は、兒童の作品はすべて子供の實感の現れで誠に尊いものであると言つて居ります。

勿論斯様に考へたならば全く指導は出來ないことになり従つて自由畫ではなく放縱畫になり易いわけであります。

然しそれが實際兒童の實感でありや否やは又大きな問題

で、兒童の精神作用を知るとは随分困難なことであると思ひます。殊に兒童心理の研究さへ不十分な現代では、或は絶對不可能のことかも知れませぬ。

従つてかゝる問題の解決は、教育者が其の指導に當つて得たる永年の經驗と、其の兒童を通じて判斷を下すより外に途はないと考へます。

此の意味から忌憚なく私の考へを申し上げますと、無論兒童の中には表現されたものが眞に兒童の實感である天才的のものもないではあるまいが、大多數の兒童は觀察或は技巧の幼稚なため、かなり誤つた表現をして居る者が多いのであります。

従つてかゝる兒童には、適當なる示範或は暗示を與へて懇切に指導せねばならぬことは當然なことであります。

但て少し餘談になりますが、世の中には子供の稚拙な作品を見て無暗に感心される人があります。尤も之れは圖書科に限つたわけではありませんが、未開人の作品又は幼稚な兒童の作品には、素朴な稚拙なところに面白味もなり、藝術的價値もそこに見出し得るではありませんが、それは多くの場合大人が見て面白いので、當の兒童には左程の感

銘も起らず、むしろ不満を感じて居る場合が少なくないことは事實かなり經驗することであります。

かつて自由畫展覽會で入賞したものに、森の前から月の出て居る畫があつたさうです。審査員はすつかり感心して特賞を與へたとかきいて居ります。これには相當の理由もあるには相違ないが、よほど慎重に考へねばならぬ問題であると思ひます。

かつて思想畫として日の出の景色を描かしたことがありますが。一人の子供は海に半ば太陽の浮び出たる景色を描き更に後から大きな島を描き添へたのであります。然るに其の島が太陽の後になつて、島の前に大きな太陽の浮んで居るのに氣付かなかつたのであります。勿論極く劣等の兒童ではあります。全く大人の想像もつかない間違をして居り、しかも誤りが大きいだけ、見れば見る程子供らしい面白味も湧いて來るのであります。確か特賞の價はあると一人苦笑したことがあります。

斯様な特殊な作品は、實際經驗ある者にして、而かも其の兒童を眞に知り得る者にして批判し得るものであると信じて居ります。



然るに経験なき或る者が、かゝる作品に特賞まで與へて展覽するに於ては、兒童は申すに及ばず一般觀覽者に如何なる心象を與るか、深く／＼考へねばならぬことと思ひます。

序に申し述べたいのは、その展覽會であります、今猶審査員として、教育方面に關係のない専門大家のみの氏名が羅列されて異彩を添へて居る場合があります。又かゝる展覽會ではさすが大家の審査だけ、かなり奇抜な堂々たる作品の入賞を見ることが多いのであります。

然し一方圖書教育と言ふ方面から見ますと、かなり考へさせられる場合が多いのに驚くのであります。

クレオン商が廣告的に開催する展覽會なら兎も角、少なくとも教育的見地より開かるゝ展覽會ならば、必ず教育者を以て審査員とせねばならぬと考へます。然し専門家を入れて其の意見を徴することは無論大切ではあります、専門家のみに決定權があつてはならぬと思ひます。専門家の立場から觀たのと、教育者の立場から觀たのでは、必ずそこに溝渠のあるのは當然であります。

扱て又本論にかへりますが、要するに我々教育者は徒ら

に實際生活に迂遠なるものゝ理論にのみ囚はるゝことなくよく兒童を通じて得たる貴重なる經驗を綜合して、着々進むことは最も大切であると思ひます。

かくして始めて眞正の意味の堅實なる發達を來す所以であると信じます。



### 彼我の差

……我國の教員は……我民族の精神我國家の意志を代表して第二の國民を陶冶し、以て我民族及我國家の發展に對して貢獻するものとして、……依つて教職は精神的教職で單なる機械的勞役の如く、只報酬の爲めに働く職とは類を異にするものと考へてゐる。従つて……俸給によつて生活が保證されるのであると考へてゐる。

然るに、歐米の學校教員にはかゝる精神は殆ど見られない様である。彼等は教職と他の機械的勞役との間に何等の區別を見出さない總て一様の職業で、當然報酬のため俸給のために働くのである。従つて俸給に相當する契約時間の外は決して働かない。

……打算的に働く教員の精神に於て、英國の別は無い。……大體米國では……教員は任命でなくて雇傭契約である……。

『教育研究』九月號より

## 十月十日 に齊一國全

### 勞働統計實地調査施行せらる

#### 勞働事情を明示する 重要な調査

十月十日、全國一齊に勞働統計實地調査が行はれることになつて居ります。此の調査は、勞働事情の實際を調べ、賃銀の勞働時間、其の他の勞働條件並に勞働生活の實況を審にし、勞働問題に對する政策施設の基本資料を得る爲に、全國の工場及び鑛山の事業主、並びにそこに働いて居る勞働者の一人一人に就いて、實地の調査を行ふのであります。

時勢の進歩、社會の發達に伴つて社會問題は益々複雑となりますので、之に對する政策施設も勢ひ其の基礎を正確なる

統計に置かざるを得ないのであります。

殊に勞働問題に付いては、先づ勞働狀態を實地に調査して、正確なる基本資料を作ることが何より肝要であつて、是が勞働調査を行ふ所以であります。

#### 勞働事情の變遷は此の調査 に依つて如何に現はれるか

勞働統計實地調査の法律的根據は、大正十一年四月の法律第五十二號統計資料

正十一年四月の法律第五十二號統計資料として、調査の期日、範圍方法、其の他必要なる事項は、勅令を以つて之を定むることになつて居ります。其の勅令の規定に依りますと、三年毎に一回十月十日

の現在に依つて之を行ふことになつて居るのであります。第一回の調査は大正十二年に之を行ふことになつて居りましたが、偶々九月一日未曾有の大震災に遭ひ到底之を行ふことが出来なくなつたので、勅令が改正せられ大正十三年に行ふこととなり、災後漸く其の復興に着手せる最中に此の調査が行はれたのであります。

而して第二回の調査は昭和二年の十月に行はれ、第三回は本年の十月十日を期して全國一齊に行はれるのであります。

凡そ勞働事情の推移變遷の方向程度は數回の調査を比較して始めて判明するも



のでありまして、此の材料を缺くときは如何に良好なる計畫施設と雖も、其の効果を収めることは困難であつて、調査を定期に繰返へして行ふのは此の比較に價値があるからであります。

### 調査の範圍

此の調査は、前述の通り全國に亘つて工場及び鑛山労働の状態を調査せんとするものでありまして、調査の期日に於て三十人以上の労働者を使用する工場、又は五十人以上の労働者を使用する鑛山の事業主及び労働者の兩者につき之を行ふことを原則とし、例外として工場に於ける事業の種類に依り、三百人以上又は百人以上の労働者を使用するものに限り調査するものと、又十五人以上の労働者を使用するものを調査するものとがあつて稍々複雑になつて居りますが、之は企業の形態組織等の上から定めたものであり

ます。即ち

- 一、綿絲紡績業又は麻絲紡績業を営む工場に在りては三百人以上
- 二、製絲業、絹絲紡績業、船舶、車輛製造業、洋紙、蠶紙、板紙類の製造業、機寸製造業又はセメント製造業を営む工場に在りては百人以上
- 三、毛撥絲業、眞綿製造業、麻眞田製造業、絲組物、洋燈心類の製造業、活字製造業、漆器業、火藥ダイナマイト類の製造業、雷管導火線製造業、製油及製蠟業、籠籠槍織傘骨柳行李類の製造業、又け蘭筵、麥桿眞田及經木眞田製造業を営む工場に在りては十五人以上

の労働者を使用する工場につき之を行ふことになつて居るのであります。而して鑛山労働の調査につきましては、鑛山監督局長の主管に屬して居りまして、知事は直接關係がないことになつて居りますから、以下工場労働調査のみについて之を申上げること致します。

### 十月十日を期し 全國一齊に行ふ

本調査の期日は十月十日でありまして同日現在の労働者と事業主の總でにつき之を調査するのであります。而して十月十日と云へば一日間でありまして、其の一日の内に異動がある場合、又は一労働者が十日に於て二ヶ所の工場の作業に従事する場合等が生ずる場合もありますので、十月十日現在の意味を十分に徹底せしむるの必要がある譯けであります。

### 調査事項は

#### 労働問題の重心

調査の事項は、之を事業主に對するものと、労働者に對するものとに區別せられて居ります。即ち事業主については左の事項を調査するのであります。

- 一、工場の名
- 二、工場の所在地

- 三、事業の種類
  - 四、労働者の現在數
  - 五、一日の所定労働時間
  - 六、一日の所定休憩時間
  - 七、一箇月の所定休業日數
  - 八、賃物給與の種類及價額
- 労働者に付ては左の事項を調査するのであります。

- 一、氏名
- 二、男女の別
- 三、出生の年月
- 四、出生地
- 五、配偶者の有無
- 六、教育の程度
- 七、職名
- 八、就業の年數
- 九、賃銀
- 一〇、賃物給與の有無

右の如く、此の調査は事業主と労働者とのつき夫々直接して調査を行ふものであり、且つ全國に亘つた調査でありまして此の法令に依る労働統計實地調査以外には、従前其の例を見ざる所の大調査であ

ります。之を見ても本調査の有用程度を十分窺ふことが出来るのであります。

### 調査の方法は自計主義と 他計主義の併用

此の調査は各工場に就きて之を行ふのであります。本調査も亦國勢調査と同じく、準備調査と實地調査とがありまして、其の太要は次の如くであります。

準備調査 は又市區町村長の事務と、調査員の事務との二つに分れて居ります

- 一、市區町村長は七月十五日迄に七月一日の現在に依りて工場準備調査簿を作成し、十月十日迄の異動を加除し、常に其の状況を明かにすると共に、十月十日現在の状況と其の時期に於て一致せしむることになつて居るのであります。此の準備調査簿には、番號、工場名、工場所在地、労働者數、備考の欄が設けられてあります。
- 二、労働調査員は、九月末日迄に労働者名簿を作成し、作成後の異動は其の都度之を

訂正加除して置かねばならぬのであります。本名簿には、番號、労働者氏名及び備考の欄がありまして、其の作成方は成るべく作業別順に、又同一作業にありては作業場順に續めて労働者の氏名を列記し、之に通し番號を附するのであります。而して副調査員のある場合は、各副調査員の分擔毎に労働者名簿の寫を作成して之を労働副調査員に交付しなければならぬのであります。

三、次は事業票及労働票用紙に關するものであります。労働調査員は十月九日迄に必ず事業票用紙を事業主に交付し、労働票用紙は副調査員を置く工場では之を労働副調査員に交付し、労働調査員又は労働副調査員は、其の保管する労働票用紙に所定の事項を記入するのであります。

實地調査 は十月十日の現在に依つて行ふのであるが、必ずしも十月十日に調査の執行を全部終はらなければならぬと云ふ意味ではないのであります。翌日以後も引續いて之を行ひ、十月十五日迄に全部の調査を終へて、事業票及び労働



票を提出すればよいのであります。調査の申告書は、事業票、労働票の二種があつて、事業主には自計主義、労働者には他計主義の方法を採り、調査の完全を期して居る次第であります。

### 調査及指導の機關 内閣より任命

労働調査は労働調査員又は労働副調査員之に當り、市町村長之を管掌し、知事之を監督するの順序となつて居るのであります。

又調査事務の執行を指導せしむる爲め必要あるときは、縣市町村に労働調査指導員を置くことを得る様になつて居ります。労働調査員及び労働副調査員並に労働調査指導員は、何れも知事の推薦に依り、内閣に於て之を任命するもので、名譽職であります。

### 調査の結果は労働問題 解決上重要な資料

調査の結果の製表は、全部中央集査の法に依るものでありまして、申告書其の他の材料を地方より進達し、中央に於て之を整理し結果表を作成するのであります。

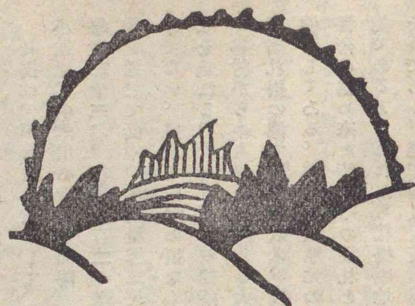
此の結果は速報及び詳報として逐次内閣から發表せられ、労働事情の内容を如實に詳細に示されるので、今後に於ける労働問題に對する政策施設の基礎資料として、最も重要なものとなるのであります。



### 生活と職業と本分

………最初は生活のために職業に就くのであつても、職業にて得るところが生活の必要よりも多く、そこで生活を離れて本分とせられる事に及ぶ。………野蠻と稱すべき時代があり、文明とすべき時代があり………その時代毎に生活程度を高めることが出来る。孔子の時代、ソクラテスの時代は、今に較べて甚しく不便であつたとし、孔子の如くし、ソクラテスの如くして、生活程度を高めたと言へる。物質的に低くても、精神的に高い。何の時代でも生活の逼迫以上に能力を伸ばしそれで生活程度を高めることが出来る。即ち生活のために職業に従事せず、本分を盡さうとするところに、その時代道德の最高點を見る。

— 倫理講演集九月號より —



### 札 掛 まで

八月十八日、一行七名には、焼き盡くさんとする眞夏の陽ざしが照りつけて居た。降りそぐ汗を拭ひながら今來た道を見下した。青々と草に包まれた山、足元から一筋道がうね／＼として大日堂の林の中に消えて居る。此處は海拔九百米、すぐ上の頂を俗に『岳』と稱してゐる。秦野盆地は一望に展けてゐる。

ヤブツ峠の險。右に斷崖を瞰下し、左に

## 相模アルプスを踏破して

### 〔第二回 丹澤山〕

中郡東秦野校山岳部

札掛まで——塔ヶ嶽へ——丹澤山………（お花畑）

馬頭觀音の墓石多きを見る。秦野から札掛迄馬を通はせる時、此處で馬の墜死することが多いと聞く。やがて平坦の道となり兩側にイチゴの色づいたのが味覺をそそつてゐる。曲折して下り坂、大山の麓を縫ふて行くと、暫くにして泉流の迸るのに會つた。門戸口に入ると針葉樹林となる、杉・檜・アスナロの如き移植せられたものが茂るところ、木材小屋が點々と散在してゐる。諸戸に入ると植林事務所と外數戸がある。こ

の邊殆ど諸戸氏の私有林で、氏は夙に植林に志し、年々植樹を試みたので自然林をなせるは灌木林の一部に過ぎない。それより地獄澤を平行して進むと愈々山氣胸に迫る所謂『育つに百年、焼けるに一時』の火の用心が目につく。

疲れ懸けたが愉快さうな顔を札掛の河原に揃へて一揃する。丹澤小學校を訪れたのは出發後三時半、午後一時に近かつた。『先生ですか、お休みで家へかへられまし



た。こちらへきてまあ一と休みなせいませ」

と親切な純朴のばあさんの言葉に従つた。Sは『札掛も俗化してしまつた』となぜ。成程、サイダー、キヤラメルや川向ふの家に古びれた布に筆太に赤く書かれた水の印を見る。この仙境も時代に順應してきたと誰もがうなづく。便利になつたので大概のものがある。しかし流石は静寂閑雅の氣が湧く——白い河原、流るゝ碧水、水の響、實に曆日なき感を浮べせる。

札掛は、四面山を環らして、大山背後の小盆地、中津川に沿ふ一部落、戸數二十四學童二十三名、標高八百二十米、氣温は四季を通じて低く、冬期積雪三尺に及ぶこと罕でない。盛夏も蚊蠅の煩なく、朝夕は祭衣を重ねる程である。この部落の東端、煤ヶ谷村からの入口に巨然たる大樫がある。所謂札掛の樫で、周圍六米、髓心朽ちて空洞をしてゐる。舊幕の頃地元村民等御林警衛の爲め來た時、その番札を掛け置いた樹であると、これから札掛の地名が起つたそうである。過ぐる日、横須賀、大磯、秦

野各資料高女生徒が登山し、京濱から多數團體が來たと云ふことである。

#### ——塔 嶽 へ——

今日の明るい中に本谷から丹澤山への直コースの様子を案内者に尋ねると不可能だといふことで、比較的容易な案内者のいらぬコースを塔ヶ嶽にとる。札掛から塔ヶ嶽迄約四時間、少し強歩すれば三時間餘りでよい。

帝室林野局の標札、植付年月日所々に立つ。所謂丹澤山御料林に入る。大山の背後に鬱然たる一大深林（日本の木材も不足はなさうなと思はせらる程）東西三里、南北四里許、實測反別だけ約二千餘町歩、實に巨木大樹密生繁茂して太古自然の氣を含んでゐる。

行けども盡きぬ崎嶇した山逕を杖を鳴らしながら辿る。行歩漸く困難、曲

折した羊腸の逕は山のうねとなり、山の中腹となり、密林を越へ、身に餘る草を分け、或は斷崖となる。次第に高く谷は愈々深く、展望は益々よくなる。谷川の白い流れが見えをめる。震災の爲に粉碎された凝灰岩、頁岩が見える。

K が展望のきく崖上に立つて休息を宣す。此處迄には、可成り道しるべの標札をしたり、岩壁に白ペンキ鮮やかに署名したりして來た。

見よ、中津川の上流の白き布引く河原、夏の陽に影豊かな大山は彼の背を我に美しく輝かしてゐる。札掛ももう下の方である。すぐ側の針葉樹林から蛸の聲がしげく、峡谷に落つる白龍の響が洩れる。水筒から一掬の水一滴を一口にどくりと音をたてゝ飲む。水がなくなれば數十丈の溪谷を下らなければ

ならない。一滴千金の思ひがする。

『山よ山よ神秘の山よ、征服してあげろぞ』と大聲でおどけてMは歌ふ。行けば兀々たる大岩、その岩かげに山つゞじが點在してゐる。箱根しだやどうだんつゝじ、茫々とした草地にある百合や、おぼろげが咲いてゐる。登るにつれて蕨かづらが到る處その威をほしひまゝに、絲狀又は鬚狀を呈する數多の地衣類が懸垂し、特にさるをがせが一面にあつて驚異の眼を瞪らせる。樹

膚には、コケシノブ、カタヒバ、シノブゴケの如き諸種の羊齒が纏繞し、樹下にはキケンシヨウマ、アラスゲ、オホイトスゲ、クマワラビ等の幽草が地に布き、益々高山深山の匂ひが濃くなる。

願れば先刻の峯は下方に見え、傾斜

は益々急となり、蛭ヶ岳、大群、本丹

澤山の彼方には立雲現はれ、これはと思ふ暇もなく、一體となり須臾にして濛々たる白雲が湧く。突如西南の眼界には翠巒重疊の群山が巍々として直前に聳ち、これ繪だ。

ガパンを出す、詩をつくる、標札を立てる、地圖をしらべる。水筒を傾ける等七人七色、描く、書く、立てる、飲む、見る等暫時忙しい。

山の陽は直射し、ところ／＼雜草のほてりは熱氣を醸して非常に熱い。やつと頂に着いたとてSは『萬歳々々』を連呼したが、更に一段高い峰を彼方に見出してSは落膽——然し元氣百倍目さず塔の峯はあと二百米位——。その塔の峯は霧に包まれ、絶壁のやうな傾斜を攀じる。たゞ一筋の胸つき道、

尺餘の蛭は冷然と横はり、その無氣味の赤腹に、惡寒が背を走る。更に生々しき熊の足跡は崖ごとに印されて、凄慘の氣が充ちてゐる。四邊暗澹幽邃の氣、人を襲ふの感が深いところ漸く頂に至ると、霧しまく中に浮ぶお花畑——陰暗にわかに開けて生氣生じ、思はず『萬歳』——Sもこゝで安心した。秦野からもつてきた饅頭を頬ばる——時に午後五時。

塔ヶ嶽の山嶺は一面に坦地でお花畑にうづまり、標札や登山者の記念が見られる。中郡西秦野村に在る。俗に『尊佛山』と云つてゐる。一夜を宿すべく必要な清水を探したが、中々見あたらす、數組にわけて搜索する、頂上から西二町とは聞いてゐたが、山路の二町は長い。四、五町下ると清水發見、諸



所にあつた。

尊佛と俗に稱せられるのは、この清水の湧く所に高さ五丈許の巖石を佛體とし、その形が佛の座像によく似てゐるからである。黒尊佛とか、孫佛とか祖佛など唱へてゐるが、其の縁起は詳かでないが、巖石に一梵字を彫刻してあるといふ傳説があるが、古色蒼然として、蘇苔地衣の類密生してゐるから認め得なかつた。早魃の際に此の石に祈請し雨を乞ふと必ず利益があると言はれてゐる。例年五月十五日に登拜する者が多いさうである。

野宿の準備に入る。老樹の下の空地に飯盒は展げ、Kは清水の湧く岩石を穿ちて水を溜める池を作り、元老Jは薪をあつめ、或は米をとき火を焚き各自分担の仕事に活躍する。水は十分あ

り、十人二十人の團體でも充分間に合ふやう、將來の爲に四ヶ所を掘り穿つて何れも成功した。『此處に水あり』の標札を諸所に立つて置く。

塔ヶ嶽山上のキャンプをした人々もあらうが、この山巔に露宿する冒険さ大膽さは我等一行が始めてであらう。幸に恵まれた晴天であつた。火を焚くにアルコールは用意してゐたが、用ひないで薪は立ち所に燃える。

今靜かに我が塔ヶ嶽は大きく暮れてゆく。夕闇迫れば冷氣襲ひ来る。征服した山だ。

あたり一面の密林、ジメ／＼した泉のほとり『まむしでも出さうだ』とGが云へば、皆首を縮める、流石に恐ろしい。焚火が夕闇を縫ふ。飯が出来る罐詰をあける。思ふ存分空腹を充すべ

く無言のまゝすいつく。

飯盒洗ひがすむと、しめつた草床の上に雨衣を敷きつめて青天井を木の間がくれに仰ぐ。星が瞬く、漫談に花が咲く、焚火をつゞける。皆體を横へたが眠れない。氷砂糖の湯をつくる。夜の冷氣が更け行くにつれて迫れば、薪の不足が告げられる。夜半十二時、月がほのかに出た。元老Jが『よし採りに行かう』と促す。要領のいいMYの狸寝入も罪がない。

星が流れる。諸子平に通づる澤の水音が聞える。下の方に怪聲がする。暫しまどろみつゝ時々交代に焚火をつゞける。山は靜かに眠る。

#### ——丹澤山——

五時半塔ヶ嶽の一夜は明けた。深山の白ぎ行く朝の氣分も又味へぬものだ

樹々の梢にさへ珍らしい神秘的ななつかしみを感ずる。忙しい、だが楽しい朝食をすこして一行が足跡を残すべく

白木に記念の文字をしめて、さらばをつげたのは丁度六時半、思へば昨夕水は何處と何物をも考ふいとまなく一氣に下りたそこは、頂上より四五丁ある西南樹々深き所である。水の在所を示す新しい文字に忘れ得ぬ喜びを感じつゝ頂上に登る。

おゝ!! 雄大なる景はまのあたり、朝霧深き萬丈の谷、高く聳ゆる緑の連山、空に浮き立つ麗峯富嶽よ——。驚きと喜びと壯大との大天地だ。近く東北には名にし負ふ丹澤山、左に高き山一つ距てゝ在るのはこれ丹澤山塊第一の高峯蛭ヶ嶽の雄姿なのだ。山又山、遠く近く西方に打ちつゞき、果ては何

處に續くか、かすかに箱根連山の後姿をながめるのもよい。四十八瀬川が谷間に白く流るゝあたりも神秘境だ。一行の意氣揚がる。

七時丹澤へ——しめつた北面の山路自然林に包まれた木の根しげき足元に注意怠りない山道、數分後突屹とした岩石亂るゝ、尾根に出た。瞰下すれば谷はあくまで深く、奇木叢立して其の景や言語に絶してゐる。山の氣身にせまり自然の力に打たれる。稀代の運筆家M君も嘆聲を發するのみ、敢ておしむべきこの地を筆におさめない。一行は丈なす熊笹を分けて前人未踏の樹間を勇み進んだのはそこからである。道は熊笹を深く枯木横はる山の中腹を越へて……。初見參の樹木に憂き世の足らざる讚美の言葉を與へる。深山

の氣みなぎり、神秘と云はふか、壯重と言はんか、將又何と言はふか——。

大木の朽ちはてた邊り一休息をするはずんだ話はつと猛獸に及ぶ。道は深く熊笹さの中に一行の姿はかくれる。

突然先頭K君の一叫!!

熊か!! 狼か!! ましらのやうに退いて見る。心臓のおのゝき、顔の色、脚のふるへ——宜なるかなだ、無人の境に人にまみゆることなきこの地にいきなり熊笹のかげに人を見んとは——笑はれぬ驚きである。『若きものよ大膽なれ』とは一行の元老J君の苦肉の一言であつた。驚かしたこの人は茲から西三里諸子平より來て此の地の駒鳥を得ようとした人なのだ。

それから數十分、樹木絶え、熊笹切れたところ、急に展開した草地一望皆



花と蝶の群り、天國の花園、再び見られぬ眺だ。咲き亂るゝ花々に相模アルプスの花畑はこゝにその粹を集めたかと見られる。我々一行の心は無上の眺めを神に謝すのである。花園はつくくゆるやかなスロープに、みだるる紅・黄・紫・白の花々!!

こゝは塔ヶ嶽、丹澤山の中央である出發してから約三十分なのだ。人の世の悩み悲しみは遠い昔の夢として――夢の――春の國とはこゝなのだ。

遠く霞む彼方を眺める景色は一しほの趣が豊で、しばしこの地に魂の遊ぶのを覚える。眼もはるけき春の國はしばらく続く――。やがて又一行の姿は熊笹の中に没した。果てしなき緑の波其の中に古色蒼然たる古木、枝もことさら珍らしく、こゝ北國の情緒みなぎ

る。深山のことなれば露多きこと限りない。そぞろに冷氣を覚え、急勾配を越へてこゝぞ目的地と花咲く高地におどる。登つて見るとこれは中程高い所第二のお花畑である。頂は眼前にあり脊にせまる日光はやうく威力を表はしはじめた。一行の元氣とみにあがり一氣に登る。遂に來た!! 我が登山部第一期の目的地丹澤山へ!! こゝは海拔一五六七米、昔時の神秘境は又我等の征服するところとなつた。そして何人も容易に且安全にこの境地に來ることが出來ると思はせられた。茲に着いて眼を遣れば景色は雄壯の二字に盡きる。

彼の大正第二回の大震の靈源地といはれる相模アルプスは、關東の名山大山の西北中津川の水源で、山巒蟠踞し

方三四里、西北直ちに青根嶽、大群山に連亘して一大山嶽をなしてゐる。大古以來斧鉞を入れたことのない大密林天人飛遊の境として無限の神秘を閉ぢたあたり、一朝大震の厄に會つて惜しむべし缺潰崩落して昔日の面影を留めない。しかし突屹とした岩石、林鳥の聲、昔ながらをしのぶにはふさはしい獸々の中に當時震源の面目を語つてゐる。

踏破の第二期にこゝを越へて諸子平へと、再び來たるべき機のあるしに、頂上に記念を建てて山小屋に別れをつけたのは午前九時。

大密林―花畑―熊笹を後に、再び塔ヶ嶽の上に立つたのは十時。限りなき思ひを連山に残して歸路につく。

(おはり)

活生の供子

藻 鹽

草〔短歌〕

大磯 小學校 高二 女

丘の上のぼりて見ればかすかなる海のかなたにかすむ大島 保田 富美世  
夕ぐれ海邊に立ちてながめをり海の彼方のいかつり舟を 早野 なみ  
浮草のしげみをわけて泳ぎぬる鮒一つ見ゆ 坂本 ちい  
雨ふる池に 坂本 ちい  
赤とんぼ落ゆく夕日美しく羽きら／＼とび 高橋 梅子  
からし飛べり 高橋 梅子  
さらさらと雨戸にさやる庭先のささの葉ゆする夜の風かも 尾崎 シヅ  
秋風にゆら／＼揺れる池の面に木の葉うかべり二つ三つ四つ 松下 磯子  
秋の夜の月かげさせる庭草の下にかぼそく虫の鳴きをり 坂 循子  
松の間に夕陽の光注ぎつつ今日のひと日も暮れゆかむとす 宮代 アキ  
庭先にさしこむ月の青白き光を見つ物思ふかな 仲手川 たか  
窓べよりさし込む光しづかなり机によりて書よみをれば 渡邊 ひさ

庭先の垣根にからむ朝顔の下に鳴きつぐ秋虫の聲 柳田 ぬい子  
わらべ等の角力とるさま面白し足ふみならしかけ聲掛けて 青木 マツ子  
風呂歸り松の下道わが行けば向ふの森に月赤く出づ 石井 せで  
月光にしらじら見ゆる草の原すき揺れをり風ふくまに 小島 まさ  
竿持ちてとんぼ釣りする男の子等の追ひかけ廻る川端の夕 宮代 ふみ  
眞夜中にふと目をさましきき入れば耳にかすかな波の音かも 梅田 くら  
朝風に吹かれて立てば庭先にさきみだれたるこすもすの花 西川 ミツ  
夏の朝子等は手に／＼竿をもちとんぼ追ひゆく草むら中に 關野 しづ  
いたづらに植ゑし野菊が咲きみだれ虫さへ來鳴く庭の隈かな 西海 きみ  
秋らしき朝のさむさをあびながら野道いそげばうれしきころ 稻富美代子

庭に出て十五夜の月ながむればせいぜんとして天地清しも 吉田 富有子  
高磯の荒岩かけにつりをする人ありと思ふたばこの煙 山下 よし  
夕されば谷間にひびくひぐらしの聲ひとしきりつづくなりけり 大久保 いそ  
十五夜の月賞でをれば庭石にスイツチヨの鳴くすがた見ゆるも 鈴木 ちよ  
秋晴の庭にじやれある小猫等の遊べる見れば思ひなきかな 大繩 橋元子  
山の端に日は落ちたれど沖にゐる白帆明るくかがやきてをり 加藤 康子  
日ならべて降りつづきたる雨あがり初夏の空すがやかなるも 阿部 川きよ  
夕方にさむき風吹く丘の上富士や箱根も目の下に見ゆ 添田 たけ  
海水をあびてかへれる人達の顔に明るく夕日が映えて 金子 ハマ  
すみわたる月の光のさすところ鈴虫の聲高くひびけり 有藤 梅子  
月光の明るきままに川端の青きすすきの影見えにけり 小川 さく  
秋の田のみのれる中にひと立つ案山子の顔のおどけたるさま 吉川 やえ子  
秋らしき日かげさし照る井戸きはの笹の細葉にとんぼとまれり 伊藤 藤千代



# 世界教育思潮の大観(續)

都筑・都田枝野路 當 作

## 第四 理想主義

### (一) 理想主義の起源

之は一面宗教主義と關聯し、他面人文主義とも關聯して、教育上の主義としては古くから起つたものである。宗教主義と異なる所は、宗教主義が神や佛を一切の本と見るに對して、理想主義は哲學的理想より、教育上のすべてを導出せんとするものである。人文主義と異なる所は、人文主義が寧ろ自然的な人間性の調和的發展を希ふに對して、理想主義は理性と道德的意志とを重んずるものである。

### (二) 希臘に於ける理想主義

プラトーンが第一の權威である。彼は此の現象界は理想界の影にすぎぬとし、その共和國を治むる哲人は、正義、明智、勇氣、節制の四大徳を要するとした。次に之を承けたのは、アリストートルであつた。

### (三) 羅馬に於ける理想主義

羅馬は大體に於て實科主義であつたけれども、また理想主義もあつた。即ちストア學派が之で、宇宙を支配する一大

普遍的理想の存在を言ふ。人も亦之を享けて生れた者であるから、一切の快樂も利益も捨て、之に従ふべきであると教へたのである。

### (四) 近世に於ける理想主義

基督教は強き理想主義であるが、新教が起つてから再び理想主義が強くなり起つた。コメニウス、ペスタロツチ、フレーベル皆然り。カント、ヘーゲル、フイヒテ皆然りであるが、之等は餘りに有名であるから省略する。

### (五) 人格的教育學

輓近獨逸に新理想主義が起つた。オイケンはその權威である。それによる教育は、所謂人格的教育學である。

### (六) 東洋に於ける理想主義

宋儒は之れである。朱子は其の權威である。儒教は佛教を作用せしめて、所謂理氣の説をなしたものである。即ち人は宇宙の本體たる理を具へてゐるが、身體のために氣の性をも享けてゐる。理と氣との消長如何によつて、君子と小人とが別れるとした。要するに東洋の理想主義は簡單消極であつた。

### (七) 理想主義の將來

理想主義は人の理想を高調するから、唯物主義、機械主義、經驗主義と反し、理想的の目的を認むる所から、功利主義や實用主義とも違ひ、社會主義よりも、個人主義であり、客觀主義よりも主觀主義である。故に教育上とかく固くなり易き點もあるが、併しその目的觀の如き、大いに之にとらねばならぬ。

## 第五 自然主義

### (一) 自然主義の起源

人文主義や宗教主義が、教權中心、大人本位となり易い所から、之が反動として、兒童中心、自由開放主義を標榜し



て起つたものである。

七六

## (二) 客觀的自然主義

コメニウスによつて第十七世紀に唱へられたものであつて、人の植物的動物的及び人間の生活を、大自然の法に従つて發展せしめて行かねばならぬものとしたのである。勿論之は彼の方法論であつて、目的論は、前記の如く理想主義であつたベスタロツ、チフレーベル亦しかり。

## (三) 主觀的自然主義

十八世紀になつて、佛のルソーによつて主觀的自然主義は唱へられた。即ち兒童その者に發達する性質があり、發達には自然の順序があるから、其の順序を追ふて教育して行けば、即ち理想人を造れるとした。つまりこれは兒童の内なる自然力をのばすのを教育としたのである。『エミール』をよめば明かである。

## (四) ルツソーの影響

カントは理想主義者であつた、併し教育は、自然の性質、自然の順序に従はねばならぬとし、而もそれを合理化すべしとした。『エミール』を読んだ夜は流石の大哲人も眠れなかつたといふ。併し『合理化』するといふ所が、ルツソーと異なる所である。ルツソーの此の主義を實際に行つたのは、バセドウの『汎愛院』であつた。

ベスタロツチ亦ルツソーの思想に影響せられ、兒童には自己活動力の具つてゐること、之は自然主義によつて發達せしめよと叫んだ。

## (五) 自由主義自學主義

現今の教育主潮たるもの、之れ亦自然主義である。

## (六) 東洋に於ける自然主義

老莊の一派は之れであり、我が國でも貝原益軒、細井平洲等は此の説をなした。

## (七) 自然主義の將來

方法上に於ては、眞によき主義である。併乍ら、目的論に到つては到底之れのみでは不可である。然し益々將來に於ては高唱されるであらう。

# 第六 機械主義

## (一) 機械主義の起源

宗教主義、理想主義が、先天的の根據の上から、主觀的に教育を説くに對立して、後天的に經驗的の根據に立ち、客觀的歸納的な教育をなさんとするものであつて、唯物的な教育の考へ方は即ち之れなのである。然して之は太古からあつたが、主に十八世紀以後自然科学の進歩以來盛んに考へられるやうになつた。

## (二) 十八世紀に於ける機械主義

十八世紀は啓蒙時代で、政治、宗教、社會其他、萬般を破壊し去り、悉く經驗的、合理的、唯物的、機械的に解釋せんとした。ヴォルテール、モンテスキュー、ルツソー等の論客雲の如く、米國の獨立、佛國の革命等相次いで起つた英のロツクは經驗論者の重鎮にして、我等の心意には、何等先天的の觀念なく、全く白紙にすぎず、經驗によつてのみ即ち感覺によつてのみ心意はなると説いた。其の他雲の如くあらはれた教育家皆之の考に影響せられた。

## (三) ヘルバルトの機械主義

ヘルバルトは唯物論を誤りなりとした精神主義者でありながら、機械觀を教育上に適用せる最も顯著なるものである彼の説は普通教育史に明かであるから省略するが、人間の心意は外界の經驗によつて構成されるもので、本能若しく



は先天的の能力又は傾向は少しもない。意識の最も單純なる要素は所謂、觀念であつて、その結合によつて種々の心意品性が出来るとしたのである。

#### (四) 實驗教育學の思潮

ヘルベルトの科學的教育學は、今日はそのまゝ襲用するものはないけれども、實驗心理學を基礎として、教育を實驗的科學的に解決し實施せんとする所の實驗教育は、主として之れに影響せられて起つたのである。ライ及びモイマンの如きは其の尤なるものである。

#### (五) 教育の統計的研究及び教育調査

現今如何なる教育を説く人も、教育の統計的研究調査を加味せぬものはない。即ち (一) 教育條件に關する事實の完全なる蒐集、(二) 結果の測定、(三) 材料の統計的研究、(四) 學校作業に關する實驗的研究法の確立などで、目下米國に於て最も盛である。

#### (六) 機械主義の將來

人間を一の機械の如く考へ、外部から自由に作れる動かせることが出来ると考へる事は誤謬であるが、實驗的に教育の原理及び方法を規定せんとする所は、將來益々重んぜらるゝであらう。

## 教育學の目的

創價教育大系著者 牧口常三郎

國民教育といふ大規模なる組織の中に、その身を投じて國家の大任を負ひ、之を果さんとするに當つて吾々が第一に講究しなければならないことは、仕事の目的觀の確立である。教育者が其の目的觀を確立するに當つて、先づ考へなければならぬのは、教師の目的と被教育者の目的とが同一であつてはならぬ如く、教育學の目的と教育の目的との異なるべきことを意識しなければならないことである。

教育の目的は、教師に教育を囑託して居る父母や社會が、被教育者に期待する所のものであるが、教育學の目的は、此の目的を達成せしむる爲めに指導するに當つて、目指す所の目標であつて、教育方法に就ての歸着點を意味する。

教育學の目的は、教師が、父母や國家社會が被教育者に對して期待する所の目的に向つて、被教育者の進行するのを指導するに、最も有効なる方法を以てせんとする希望を滿さんが爲めの方法を講究するのにある。

#### 教育學の目的は

盲目的の生活を盲目的の生活への指導である。



無意味の生活を有意味の生活に。

無價値の生活を有價値の生活に。

反價値の生活を正價値に。

低價値の生活を高價値に。

無駄の生活を無駄の生活に。

無益行動を有益の行動に。

有害の行動を有利の行動に。

不善の行動を善良の行動にと指導する原理を得んとするのにある。

如何に無意味の行動の多きや、如何に無駄の言語の多きことや。要するに盲目的行動の多きことよ。

教師の一言一言を悉く合目的にせよ。有意味にせよ。



教育の目的が、之に應ずる手段も、價値を目的とすることには間違はない筈。人生といふ大目的達成の手段である以上、價値を離れては講究されないし、又その指導する手段を目的とする教育學に於ても、價値を離れては考へられないものであるから、價値の研究が何よりも先づ必要となつて来る。

尙、これを具體化して謂へば、教育目的達成の經濟的な手段は何ぞといふのが、吾々兒童を相手とする教育者、及び父兄の當面の研究問題でなければならぬ。

何の事業に於ても、目的意識の不明確なる人は、一々他人の指揮を受けて活動する外途のないもので、一人前の大人としてこの資格のない人で、幾人かの共同生活の團體に於て、相當の位置にあり、殊に其の中の或る重要な位置にある人が缺陷を生じて失策をし、其の極無能として信用を失つて遂に失脚するのは、大概目的意識の明瞭でないのに基づく



教師の仕事は側面から観ると、如何に無意識的活動の多いことよ。固より、一舉手一投足の些末な事柄までを、一々意識して活動せよとは六敷い注文であらう。さりながら、理由の不明確な事柄を他人が遣つて居るからといふ單なる理由によつてなしつゝある傳統的、模倣的活動は、人格の價値創造といふ高尚複雑で、且つ最も重要な聖職の本質に對して、斷じて承認さるべきものではない。幸に事の利害關係の最も密接なる、父兄保護者たる一般民衆の目醒めない間は、それに乘じて姑らく潮縫しておくことが出来やうが、一度其の愛兒の行末までも見通して、其の教育手段を考へるだけに至つた父兄が、日に日に年々其の兒を託する教師について、右の條件の缺乏に氣付いたときは、恐らくは不安でたまるまいから、結局は之れに適當した教師を選ぶといふ、寺小屋制度の學校が最上の理想となる事であるまいか。

畢竟、目的觀念を意識して、之を生活の原理原則として、自發的に之に達する手段の觀念、即ち順序方法の智識を構成するだけの智能の發達しない人の免れ難い所で、他の職業ならば忍ぶべしとするも、教師の仕事だけはどうしても我慢することの出来ない筈のものである。斯様な教師は父兄や社會が無意識の今日に於てこそ存在の餘地はあれ、發達した將來に於ては當然驅逐されなければならぬものである。

教育學は可能性の少い空想を構成して、目前の煩悶を満足して足れりとするべきものではない。飽くまで實際に直面した可能性を尋求すべきである。



教育實際家の熱望する價値ある方法は、果して如何にして生ずるか。これは教育學者乃至哲學者等の人性を見詰めた眼から、人生の中から取り出されるが如き考を以て他力的に依頼しても無益である。恐らくは實際家の血の出る様な悶えの眞剣味から湧き出るより外に途はあるまい。昔からの學問發見發達史上よりしか思はれる。

往年「人生地理學」を著して地理科の革新を促し、其の後「郷土科」「地理教授法」も著したる牧口氏は目下は東京市白金尋常小學校長として數十年の研究の結果を綜合して、創價教育學を近々發表せんとしつゝある由。



## 互助會便り

八二

執る。

文部省から七月一日附で、改正定款の認可通知が七月三日到達したので、實施に關する進行に直ちに着手しました。七月六日には、認可通知と實施期日通知とを、横濱貿易新報、横濱毎日新聞に廣告の手運びをして役員及び會員に速報を期し、「神奈川縣教育」七月發行にも廣告しました。

七月七日には認可と實施期日の通知を理事、參事並に支部長各學校長宛に、定款を添へて發送。次いで、定款に依り委員囑託狀を、小學校長中等學校長に送つて委員を依頼。

七月中旬、横濱區裁判所に登記手續を

七月十八日、評議員會を開催し、改正定款に依る理事四名となすためにその一名（從來は三名）と、監事二名の選舉をなし、事務の打合せ、會員勧誘の協議をしました。

改正定款が文部省から認可があり、七月十日から實施せられたので、各市郡に於ては、甲種通常會員に變更すること、事務のことや新入會に關すること等協議研究が行はれ、甲種通常會員に變更の書類が七月中旬から本部に廻送され始めて、九月中旬までに新入會員の分を併せると既に約千二百に達し、

其他支部役員の手許を経由中のものが相當多きに達して居るやうであります。九月中には甲種通常會員に申込みが千五百を突破しやう、或は二千に及ぶでせう。七月中いち早く一校全職員舉つての申込の所もあり、八月を越して九月に入るや續々各支部を経て申込があり、中等學校からの申込が果然澤山に及んで居ります。

申込に基いて振替りの向のものは一々詳細に本部の調査と照合し、（不明の點あれば照會を發し）所定の甲種通常會員名簿用紙に必要事項を、本會用、支部用、委員用の各欄に記入する。次に甲種通常會員領收簿に記入する。其の間に申込用紙記入の各事項と帳簿との照合が實に時間を要するのである。

それから前記の名簿と領收簿とを各校別に分け夫々郵送する。一面會費の送

金に對しては甲種通常會員會費收納票に記入し會計簿に記帳し、會費受入書を學校に返送する。眼の廻はるやうである。それが千數百名の分を斯うして處理して行くのです。

電話

○「先日退會届を出しましたが届いたでせうか」

×「もし／＼どなたですか。」

○「何校の何々です。」

×「一寸お待ち下さい。」

卓上に一ぱい廣げた書類のうちから引き出して調べる。

×「届いて居ります。」

○「今、互助會はどうしてゐますかね」  
何といふ理解のない言葉でせう——無理解な言葉にづうんとした氣持が背筋を走る。

×「申込者やその他の書類が非常に澤山で、臨時に別の室で處理中ですから、あなたの退會金も近いうちにお送りすることになります」

◇

多數の書類を一々誤りなきことを期して眼を向け細心の注意を拂つて書記し發送に先だつて讀み合せをする。切手を張る、郵便局へ持つて行く——。

何故に敏速に行かぬかといふ疑問を晴して頂きたい。

しかし、最早一時に千有餘のものを處理する大多忙は過ぎました。  
去る七月から臨時に縣廳三階の一室を互助會の假事務室に充てゝ事務を進捗させて居ります。

電話は

縣廳内の電番の七四番です。

## 原稿お願

誌面の内容に各方面の材料を盛つて變化あり、趣味あり、くだけた所もあつてよいと考へます。此の様な内容を持たせる意味に於て御寄稿あらんことをお願い致します

□教育勸語に關しての研究、施設、感銘の深い事例等を十月十日までに御寄稿下さい

猶一般原稿を次の様に御寄稿願ひます。

- 論說、研究、施設や教授の實際方面
- 教育體驗や生活體驗、人生相や社會相等の隨感隨想等の短篇物
- 詩、短歌、俳句等
- 一讀快笑微笑する等の短篇物
- 新刊書の讀後の感
- 美談、感銘談等

十月十日までに御寄稿を望む  
尚毎月五日までに御送稿下さい



關東聯合教育會

(第二十六回)

十月十八日より三日間長野市に開催。本縣教育會からは、村上教務課長、豊田師範校長、小泉大磯校長、高城主事出席の豫定。尙提出議案は次の通である。

關東聯合教育會規則改正案

第五條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第六條 本會ニ常任委員ヲ置ク其任務左ノ

如シ

一、議題ノ選擇整理

二、決議事項ノ實現促進

三、加盟各教育會ノ聯絡

四、其他急ヲ要スル事項ノ協議

第七條 常任委員ハ各府縣ヨリ一名宛選出

スルモノトス東京府選出ノ委員ヲ以テ委

員長トシ其事務所ヲ帝都教育會内ニ置ク

第六條中ノ「取捨」ノ二字ヲ削ル

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外加盟各教育會ハ常任委員會ノ經

費トシテ年額金壹圓ヲ負擔スルモノトス

但シ常任委員ノ旅費其他ノ實費ハ各府縣

ヨリ支出スルモノトス

(理由)

第二十五回關東聯合教育會ニ於テ常任委員設置ノ件議決セラレ其會則ト抵觸スル部分ハ主催教育會ニ於テ修正案ヲ作製スルコトヲ一任スル旨附帶決議セラレタリ之レ本案ヲ提出所以ナリ

右 神奈川縣教育會提出  
横浜市教育會提出

神奈川縣中等學校體育聯盟規約

體育聯盟規約

第一條 本聯盟ハ神奈川縣中等學校體育聯盟ト稱シ神奈川縣中等學校ヲ以テ組織シ男子部女子部ノ二部ニ分ツ

第二條 本聯盟ハ縣下中等學校ニ於ケル體育ノ健全ナル發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事項ヲ行フ

一、體育運動競技演武會ノ開催

二、體育ニ關スル協定

三、其他本聯盟ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項

第四條 本聯盟ノ行フべき體育運動ノ種類ハ概ネ左ノ如シ

體操遊戲、陸上競技、水上競技、野球、蹴球、籠球、排球、庭球、卓球、柔道、劍道、弓道

第五條 本聯盟ニ顧問ヲ置クコトアルベシ

第六條 本聯盟ニ左ノ役員ヲ置ク

理事長 一名

常任理事 男子部女子部各四名

理事 若干名

委員 若干名

幹事 若干名

第七條 理事長ハ本聯盟ヲ代表シ事務ヲ統

理ス

常務理事ハ該部ノ事務ヲ處理ス

理事ハ重要ナル事項ヲ審議ス

委員ハ本聯盟事業ノ實施ニ當ル

幹事ハ庶務會計ニ從事ス

第八條 理事及常務理事ノ任期ハ二ケ年ト

ス但重任ヲ妨ゲズ

第九條 理事會ハ毎年一回以上之ヲ開キ左

ノ事項ヲ議決ス

一、本聯盟事業ノ企劃

二、豫算決算ニ關スル事項

第一日——十月廿五日(土)

(一)開會 (二)君が代合唱 (三)教育勅

語奉讀 (四)大會經過報告 (五)知事式

辭 (六)文部大臣告辭 (七)祝辭 (八)議

長推薦 (九) 議事諮問事項、協議事項

(一〇)研究發表

第二日——十月廿六日(日)

(一)研究發表 (二) 議事 (三)閉會

(四)市内見学

1 弘道館 2 舊水戸城 3 彰考館

4 偕樂園 5 常磐神社參拜 6 其ノ他

第三日——十月廿七日(月)

見 學

1 筑波郡小田農業實修學校 2 小田城

趾ニ於テ講演(南朝ト常陸國) 3 筑波

登山(關東平野ノ展望) 4 日本國民高

等學校

第四日——十月廿八日(火)

學校視察 四班に別れて公民學校を視察

▼「補習教育」第九十一號に於いてこの大

會を十月十八日より開催のことに發表あ

つたが、關東聯合教育會日程との都合上

前記の通り變更

▼出席 建議・協議・發表題の提出、個

三、規約ノ改廢ニ關スル事項

四、其他重要ナル事項

第十條 理事會及委員會ハ必要ニ應シ理事

長之ヲ開ク

第十一條 本聯盟ノ經費ハ加盟學校ノ負擔金

並ニ補助金寄附金等ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 加盟學校ハ本聯盟ノ決議ニ服スル

ノ義務ヲ負フモノトス

第十三條 本聯盟ノ事務所ハ當分ノ内神奈川

縣廳教務課内ニ置ク

第十四條 本規約施行ニ關スル細則ハ別ニ之

ヲ定ム

神奈川縣中等學校體育聯盟細則

體育聯盟細則

第一條 規約第三條ニ關スル協定事項左ノ

如シ

一、運動競技演武會ニ關スル件

一、運動種目ニ關スル件

一、運動競技演武會參加ニ關スル件

一、參加者選定ニ關スル件

一、應授若クハ見學ニ關スル件

一、褒賞ニ關スル件

一、其 他

全國實業補習教

育大會 (第六回)

一、日時 昭和五年十月 自廿五日 至廿八日の四日間

二、會 場 水戸市——茨城縣立水戸高等女

學校大講堂

三、行事 (毎日午前九時開會)



人又は團體の發表、見學・宿舍等詳細のことは、文部省構内實業補習教育研究會宛照會のこと

主催 文部省構内實業補習教育研究會  
東京帝大農学部構内農業教育研究會  
全國實業補習學校教員養成所協會  
後援 茨城縣教育會  
茨城縣教育會

## この書圖

### 手に觸れた印象

葦風生

### 小學校に於ける

### 詩の作らせ方

味はせ方

四六版薄あづき色の表紙に、赤色の書名文字が躍つてゐる。繙いて扉、緒言、目次、本文と見て行く——最新刊のまだ生々しい紙の香がぶんと来る。緒言の中に  
工場地に育つ子たちのうたもまとめて見たいと思ふてゐる。そうすると、田園の巻都市の巻、或は土の巻、煤烟の巻ともなつて

此の道のために面白いと思ふてゐる。取敢ず一部をのせて次のへの機縁とする。  
とある。目次を見る——

二人の話、幼き夢のつゞき、短唱詩提唱、  
峠へ、短唱詩ノート、野に歌ふ、光る針、  
鑑賞、習作ノート、自然へ蘇生等々——  
いかにもふさはしい題目が氣持よい。  
頁を繰つて本文を見る。

著者の二人が、言はんとする所を端的に放膽に、理窟抜きにして描寫的に、中心をすばすば練りをかけて叙してある。簡明に手取り早く真意を理解し得るのは嬉しいことです。内容の荒筋は、子供の短唱詩の作品を、指導啓蒙の時間経過に従つて、著者の教育的魂から進み湧く力を以て、批評や感想を加へてある。著者の血ののちみ出すやうな苦心と、子供の生命の伸展の様子が、全篇にうかがはれる——實際にすぐ参考になる迫力がある。斯うした計畫が初等教育界に造られたことは同慶に堪えない。編輯の期目迫つて、靜かに讀過することの出来ないことを残念に思ひますが、内容の批評は他にその人あることを待望し、唯、手に觸れた新印象をそのまゝ走筆する——著者の二人は、東京府に直面する

本縣教育界の東線に在つて、現職に活躍してゐることも、此の書に親しみを覺える——九月一日の發行である。

◇四六版二七二頁——定價一圓八十錢

發行所 東京小石川竹早町三六

都文書院

## 著書と講演と舞踊

中央婦人會では、理事山脇房子、吉岡彌生、嘉悦孝子、甫守ふみ、越智キヨの名で、本縣教務課長宛次のことを縣下に周知の依頼紹介がありましたので、茲に掲げます。

### 著書

同會主事中央大學教授増子懷永氏著

「教化五十詔勅」文部省囑託として氏の我國歴代漢文詔勅の詳釋であつて、創始の業績として既に同省に進達あり、公刊の豫定。

「詔勅ものがたり」中央教化團體調査委員として著述。教育勅語煥發四十年記念として詔勅の理解に關する述作、同團體の發行。此の二者の購讀せらるゝことを希望。

### 講演

十月三十日の勅語煥發記念日、十一月三日

の明治節、十一月二十二日の青年團令旨奉戴記念日、又は其等準備の事前の指導講習等の開催の場合は、増子主事は詔勅の聖旨の講演の求めに應ずる由。

### 舞踊

右の講演と共に「君が代」皇太后陛下御歌「花すみれ」「金剛石」の舞踊を増子主事妻創作にかゝるものを希望により同行して演舞する由。詳細は同會に照會下さい。

東京府北豊島郡長崎町一九一九

### 中央婦人會

## 教育勅語十五大詔勅

四十周年記念 四六版 定價拾錢

内容は、天祖の神勅、明治天皇、大正天皇、今上陛下の詔勅を集録したもので、讀がなが附してあり、教職者、兒童學生、男女青年團員の諷誦に待つものである。

發行 東京神田錦町三の五

### 教育勅語鑑仰會

## 教育勅語謹讀本

簡潔平明に謹讀したもので、節を區切つて文字の意味を明かにし、くはしい解義がしてあります。

四六版三二頁 定價五錢

發行 東京京橋本町二ノ一三

### 教育勅語奉贊會

## 寄稿の希望

- 論說、研究、施設や教授の實際方面
  - 教育體驗や生活體驗、人生相や社會相等の隨感隨想等
  - 詩、短歌、俳句等
  - 一讀破顔快笑、微笑する短篇物等
  - 新刊書の讀後の感想
  - 美談、感銘談等
- 毎月五日までに御寄稿を望む。

## 本誌定價

一年分前納金參圓

## 本誌廣告料

特別頁 一頁 十圓 半頁 五圓  
普通頁 一頁 五圓 半頁 三圓  
一行(五號二十三字詰) 三圓 三圓  
三ヶ月以上連續掲載 五圓 五圓  
六ヶ月以上連續掲載 五圓 五圓

昭和五年九月廿八日印刷  
昭和五年十月一日發行

發行所 神奈川縣教育會  
振替貯金口座東京七三三番

編輯人 横溝 今次郎

印刷人 鈴木 清五

印刷所 横濱市中區住吉町五丁目五十八番地  
横濱市中區住吉町五丁目五十八番地  
印刷所 横濱 活版舍

(電話港長町〇七五六番)



弘道館の特賣

振替口座取  
東京八一五  
次  
全國各書店

定價 二、三〇  
特價 一、九〇  
送料 一二  
新論學綱要  
紀平 正美著  
定價 二、二五  
特價 二、〇〇  
送料 一二

定價 一、八〇  
特價 一、五〇  
送料 八

文學博士 尾上 八郎 著

日本文學新史

定價 二、〇〇  
特價 一、八〇  
送料 八

定價 一五〇  
特價 二五  
送料 一二

朗吟詩選

文學博士 鹽谷溫著

定價 一五〇  
特價 二五  
送料 一二

定價 三、八〇  
特價 三、二〇  
送料 一二  
理學士神田正悌、神野淺次郎共著  
植物講義  
定價 七、  
特價 五、  
送料

定價 三、五〇  
特價 二、一〇  
送料 二

**最新肥料學講義**

農學博士 吉村 清尚著

定價 四、三〇  
特價 三、一〇  
送料 二

定價 三、〇〇  
特價 二、五〇  
送料 一、八〇  
農學博士 吉村 清尚著  
新編肥料學全書  
定價 九、  
特價 七、  
送料

定價 一、八〇  
特價 一、五〇  
送料 一二

阿部八代太郎著

平面三角法

定價 二、二〇  
特價 一、九〇  
送料 一二

定價 五、〇〇  
特價 四、二〇  
送料 一、八〇

立體幾何學

阿部八代太郎著

定價 二、〇〇  
特價 一、六〇  
送料 一、〇〇

定價 四〇〇  
特價 三〇〇  
送料 一六〇

平面幾何學

理學士秋山武太郎、理學士黑河龍三共著定價三  
特價二、  
送料

定價五元  
特價四元  
送料一八

代數學講義

理學士古賀軍治、理學士三輪彰共著

上(定價三元) 下(特價四元)

定價 金一八〇  
特價 一三〇  
內地送料 一二  
算術講義  
古賀軍治、理學士三輪彰共著定價金二  
特價 一  
送料

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and a prominent horizontal crease across the middle. A small tear is visible near the bottom right corner. The left edge of the page shows the binding structure, including stitching or staples.

時申込あれ

選擇自由分賣を短期期限之を提供す

大出版茲に完成を告げんこす

鹽野新次郎 共著  
澤東 貫著  
平澤東 貫著  
申込進呈す  
振

文學博士 坂井喚三著

陸軍士官學校教授 鹽野 新次郎 共著  
東京高等政學館教授 賴 成 一著  
自九月一日至一月十日

第一高等學校  
教授 文學士  
佐久間 節著  
文學博士 中山久四郎共著  
期限

大東文化學院  
教授 文學士  
近藤 藤正 治著  
優美高尚の  
本立を贈呈す  
十五册以上一時申込

授文學士 陸軍士官學校教授 高成田忠風著  
 十五冊金叁拾六圓  
 全額拂金五十四圓

東帝國大學  
教授文學博士  
國學院大學教  
小柳司氣太著

宇野哲人著

送料金十四錢  
(市內金六錢)

文學博士 鹽谷 溫  
文學博士 宇野 哲人 共著  
文學博士 諸橋 徹次

壹冊につき金  
貳圓六五錢

鹽谷 溫著  
內野 台嶺著

擇牙賣開始

卷一百一十五

發行所 東神 京田 弘道館 (振東 替京 口一 座五)



帝各 國府縣 教育會撰定

定價表

手本  
上下各冊  
八錢

練習帖  
上下各冊  
四錢

價特引割

金拾錢

硬筆書方は論議の時代に非ず實行の時代也。而も國定毛筆書方手本と併用し得可き教材は形式内容共に唯是有のみ各府縣教育會が率先撰定推賞するの所以。雜多の物を排し全校速時に是を御採用あれ。

者筆本手 定國  
書石吳脇 方書西

硬筆書方手本  
同附屬練習帖

# 標準硬筆書方教材出現

所 行 發

京東替振 部版出會育教國帝 田神京東  
番六八二八六 橋 ツ 一

京東替振 部版出店書堂門稻 込牛京東  
番八〇六一 七五ノ二町原

---

店 賣 販 大 下 縣

京東替振 所賣販約特 縣川奈神 區中市濱橫  
番二六六三七 書科教定國 卅ノ二町萊蓬

尋常科

東京高師教官廿數氏分擔執筆

教科書の逐次改訂に伴ひ、隨時追録の發行を以て本書の内容を補正し、  
永久に新しい指導者であらうむる爲め加除綴の装釘を採用しました。學  
期、學年別の分賣も自由で必要な部分のみ、徐々採用され數年  
後に完結する事も出来極めて便利になつたことになりました。

全十九冊  
定價 四十五圓  
送料 二圓

第二學期用(中卷) 第三學期用(下卷)

第一學年	一七〇	一七八	●	送米
第二學年	一八〇	一八九	●	
第三學年	二〇〇	二〇九	●	
第四學年	二五〇	二六〇	●	
第五學年	三〇〇	三一〇	●	
第六學年	三五〇	三七〇	●	

第一學年	一八〇	一八	送米
第二學年	二〇〇	二六	送米
第三學年	二二〇	二八	送米
第四學年	二四〇	二八	送米
第五學年	二六〇	二七	送米
第六學年	二八〇	二七	送米

第一學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	縫紉全學年
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
●	●	●	●	●	●	●	●
一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八

# 高等科

全八冊 定價 三十六圓  
菊版約五千頁木版、凸版、寫眞  
版千三百數十個入、數度刷オ  
フセツト五十餘葉入

第一學期用(上卷)	定價	送料
第一學年	五・三〇	・二七
第二學年	五・三〇	・二七
第二學期用(中卷)		
第一學年	五・六〇	・二七
第二學年	五・七〇	・二七

第三學期用(下卷)	定價	送料
第一學年	四・六〇	・二七
第二學年	四・六〇	・二七
家事學年	二・四〇	・二八
裁縫學年	二・六〇	・二八

加  
除  
自  
在

醫學指南

正數材は全劃一的のもであつて、之を各地方について考究しなかつた。各科並に各學年を通じて、適當なものがあつた。必要なものになつたりして、可なり大きな缺陷が見出されるに違ひありません。更に一般的に考究して見てもこの缺陷は免れずあります。弊社には一に深く見るところあり、東京高師教官中の權成ら思ひ關し、各獨得の補材指導に關する永年の體驗を披瀝していただくことになりました。本書は系統的な補材指導書でありまして、恐らく他の追隨を許さぬ無類のものであらうと思ひます。

尋常小學補材指導書

菊判總布製  
全八冊  
定價廿八圓  
送料八十錢

學年	內	容
----	---	---

}

第一學年

第二學年

第三學年

第四學年

第五學年

第六學年

2

東京

黃鶴

1

帝國地方行政學會

修身、讀方、綴方、算術、遊戲	三〇〇	一八
修身、讀方、綴方、算術、遊戲	三〇〇	一八
修身、讀方、綴方、算術、遊戲	三〇〇	一八
修身、讀方、綴方、算術、遊戲	三〇〇	一八
修身、讀方、綴方、算術、遊戲	四〇〇	二七
地理、讀方、綴方、算術、國史	三六〇	一八
地理、讀方、綴方、算術、國史	三六〇	一八
地理、讀方、綴方、算術、國史	三七〇	一八
地理、讀方、綴方、算術、國史	三七〇	一八



店書各下縣賣發

刊新最

中等教育研究所編纂

▼菊版美装堅牢  
▼定價八拾錢

▼約三八〇頁  
▼郵稅十二錢

神奈川縣中等學校師範學校

# 入學選抜問題と其の答へ方

發行  
日十月九

## 目要の容内

- ▼受験する皆さんへ（受験に大切な三要件）
- ▼昭和五年度の男女中等學校と男女師範學校の口答と筆答の諸問題と其の答へ方
- ▼昭和四年度の男女中等學校と男女師範學校の口答と筆答の諸問題
- ▼學習參考上の諸問題と其の答へ方

受験する身になり、指導する心になつて、受験者の良い友達であり、味方であるやう、用意の行届いた編纂!!

果然好評を拍して居ります。讀購豫想を越して多く各方面からの快報に感激を重ねて居ります。

所賣販約特書科教定國縣川奈神 行發

振替口座東京七三六六二番  
電話番號長町四四九七番

○三ノ二町萊蓬區中市濱横